



2022 年度 医学教育共同利用拠点
医学教育開発研究センター
年報

岐阜大学

GIFU UNIVERSITY

はじめに

岐阜大学医学教育開発研究センターは、2001年に医学教育分野の全国共同利用施設として設立され、今年度で22年目となりました。皆様のご支援のもと、医学教育分野で唯一の教育関係共同利用拠点としての責務を遂行しているところでございます。

拠点事業としては、コロナ禍でオンライン開催へと移行していた年3回の「医学教育セミナーとワークショップ」ですが、10月に関西医科大学との共催にて2年ぶりに対面にて開催することができました。直接みなさまと交流できる機会を設けることができ、あらためて対面開催の良さを感じる事ができたと感じます。また、昨年度から運用を開始した、eラーニングシステムを利用して医療者教育学の基本を学ぶことができるプログラム「医療者教育スターターキット」は、教育機関・一般公開を併せて90余名がすべての項目を修了されました。来年度もこのプログラムを通じて医療者教育の種がさら広く蒔かれ、芽吹くことを期待します。

また医学教育学分野・医療者教育学分野の優れた人材育成を目的とした大学院教育においては、博士課程では2名、修士課程では2期生6名が修了しました。修了生たちが今後の医療者教育のリーダーとして活動を広めていくことを期待すると同時に、修了生たちとのコミュニティ形成を進めていき、更なる発展につなげていきたいと考えます。

テュートリアル教育を主体とした卒前教育では、2020年に設立された東海国立大学機構として名古屋大学と連携を更に深め、カリキュラム改編を進めております。コロナ禍においてオンライン授業が標準化されつつある現在、対面授業とオンライン授業の双方の利点を活用しながら、学生の学びを最大限に引き出す工夫をこれからも模索してまいります。またこれに付随して、学部教育を支える模擬患者育成、技能学習の場として提供しているスキルスラボの運営も続けてまいります。

以上のように、今年度も活動を前進させることができた当センターですが、ポストコロナ時代となり、「学び」そのものが大きな変革期の中で、これからも持続可能な新しい教育を模索してまいります。今後も全国共同利用拠点、大学院教育、卒前教育の3つの柱を中心に精進して参ります。皆様の変わらぬご支援ご鞭撻のほど、心よりお願い申し上げます。

令和5年4月

共同利用拠点
岐阜大学医学教育開発研究センター
センター長 西城 卓也

目次

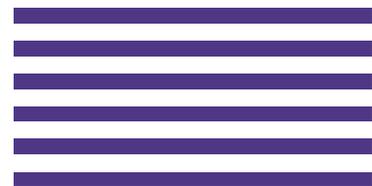
MEDC 概要	1
ミッションとビジョン	
職員名簿・令和4年度事業報告	
業績・新聞記事	
拠点活動	33
学びの宙の報告	
医療者教育スターターキット	
医学教育セミナーとワークショップ	
アソシエイト会員制度	
フェロースhipプログラム	
機関誌「新しい医学教育の流れ」	
教務事務研修	
ホームページ/Facebook/Twitter	
大学院	41
教育研究の推進	
修士課程（医療者教育学）	
博士課程（医学教育学）	
卒前教育	44
医学生の学びを支える	
テューリアル教育	
医学概論	
テューリアル選択配属	
地域体験実習	
医師・患者関係	
臨床推論	
ライフサイクル	
医療英語・国際交流	
英語O S C E	
里親支援	
学内活動・学外活動	55
指導医講習会／ユニットの会	
臨床スキル・シミュレーションラボ／岐阜大学模擬患者の会	
医学教育分野のI R実践	

沿革

MEDC概要

MEDC概要

—ミッションとビジョン—



拠点活動

学びの宙そらと称した各種全国規模の講習会などを定期開催し、全国の医療者の活性化に努めています。

大学院教育

岐阜大学の医学教育学の博士課程と医療者教育学の修士課程で大学院生を指導しています。

卒前教育

岐阜大学や名古屋大学医学部などと連携し、卒前の医学教育を通じた学生支援・各種授業での指導・学内改革に取り組んでいます。

新しい潮流を創る

岐阜大学医学教育開発研究センターは、東海国立大学機構岐阜大学の組織です。2001年に設立され、2001年からは全国共同利用施設として、2010年からは医学教育の共同利用拠点として、文部科学省より認定されるセンターです。我が国の医療系の学習者と指導者のために、新しい医

療者教育を開発・研究・普及させることが、私たちのミッションです。常に改善と改革を意識して、海外のエキスパートとも交流を深めながら、全国のため、岐阜県のため、そして岐阜大学のために、全国の皆様と医療者教育の新しい流れを創り上げて参ります。

職 員 名 簿

教 員

職 名	氏 名	所 属	電 話	備 考
センター長 教 授	西城 卓也	指導者養成部門	058-230-6472	
副センター長 教育開発学部門長 併任講師	川上 ちひろ	教育開発学部門	058-230-6469	
指導者養成部門長 併任講師	今福 輪太郎	指導者養成部門	058-230-6469	
教 授	藤崎 和彦	教育開発学部門	058-230-6467	
特任教授	鈴木 康之	指導者養成部門	058-230-6462	
特任助教	早川 佳穂	教育開発学部門	058-230-6465	

兼任教員

職 名	氏 名	所 属 等
准 教 授	恒川 幸司	大学院医学系研究科医科学専攻医学教育学分野
准 教 授	堀田 亮	保健管理センター

客員教員

職 名	氏 名	所 属 等
客員教授	岡崎 史子	東京慈恵会医科大学 教育センター 准教授 (2023年1月～ 新潟大学医学部医学教育センター 教授)
客員准教授	藤江 里衣子	藤田医科大学 医学部医学科 講師

特別協力研究員

氏 名	所 属 等	期 間
増田 多加子	東京薬科大学	H29. 2. 1～

非常勤職員

職 名	氏 名	電 話	備 考
事務補佐員	脇坂 琴乃	058-230-6465	
事務補佐員	藤井 梨恵子	058-230-6465	
事務補佐員	窪田 恭子	058-230-6465	

事務職員（医学系研究科・医学部教育企画係）

職名	氏名	電話	備考
係長	中田 さおり	058-230-6470	
事務補佐員	福田 ゆう	058-230-6470	
事務補佐員	福井 暁子	058-230-6470	

非常勤講師

氏名	所属
阿部 恵子	金城学院大学看護学部
後藤 忠雄	県北西部地域医療センター 国保白鳥病院
若林 英樹	三重大学医学部 亀山地域医療学講座
市橋 亮一	医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック
中村 真理子	東京慈恵会医科大学 教育センター
清水 郁夫	千葉大学医学部医学教育研究室
鈴木 一吉	愛知学院大学短期大学部 歯科衛生学科
James Thomas	慶應義塾大学医学部 医学教育統轄センター
浅田 義和	自治医科大学 医学教育センター
宇野 哲代	ことばの泉作文研究室
岡崎 史子	東京慈恵会医科大学 教育センター (2023年1月～ 新潟大学医学部 医学教育センター)
田島 嘉人	平成医療短期大学 リハビリテーション学科
布原 佳奈	岐阜県立看護大学 看護学部
齊藤 裕之	山口大学医学部附属病院 臨床教育センター
土屋 静馬	昭和大学医学部 医学教育学講座
藤江 里衣子	藤田医科大学医学部医学科 医療コミュニケーション
小野 香織	早稲田大学 グローバル・ストラテジック・リーダーシップ 研究所
小西 由樹子	名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部人材育成・情報発信グループ
梅村 彩美	名古屋大学医学部附属病院 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
尾原 晴雄	沖縄県立中部病院
吉村 博	聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院
春田 淳志	慶応義塾大学医学部 医学教育統轄センター
松山 泰	自治医科大学 医学教育センター
道信 良子	福井県立大学 看護福祉学部
八木 街子	自治医科大学 医学教育センター
下井 俊典	国際医療福祉大学 福岡保健医療学部理学療法学科
望月 礼子	鹿児島大学病院 救急救命センター

荒井 和子	東京都豊島区池袋保健所
西屋 克己	関西医科大学 教育センター
小西 恵理	淀川キリスト教病院
船越 拓	東京ベイ・浦安市川医療センター

運営協議会委員

氏 名	所 属 等
西城 卓也	岐阜大学医学教育開発研究センター長 教授
大久保 由美子	帝京大学医学教育センター 教授
錦織 宏	名古屋大学大学院医学系研究科総合医学教育センター長 教授
山脇 正永	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 教授
高橋 誠	北海道大学医学研究院医学教育・国際交流推進センター 教授
武田 裕子	順天堂大学医学教育研究室 教授
渡邊 洋子	新潟大学人文社会科学系（創成学部） 教授
中島 茂	岐阜大学医学部長 教授
秋山 治彦	岐阜大学医学部附属病院長 教授
古家 琢也	岐阜大学医師育成推進センター長 教授
牛越 博昭	岐阜大学地域医療医学センター長 教授

運営委員会委員

氏 名	所 属 等
西城 卓也	岐阜大学医学教育開発研究センター長 教授
藤崎 和彦	岐阜大学医学教育開発研究センター 教授
中島 茂	岐阜大学医学部医学科長 教授
竹下 美恵子	岐阜大学医学部看護学科長 教授
秋山 治彦	岐阜大学医学部附属病院長 教授
矢部 大介	岐阜大学医学部附属病院医療情報部長 教授
下畑 享良	岐阜大学大学院医学系研究科 教授
永井 宏樹	岐阜大学大学院医学系研究科 教授
佐藤 忠	岐阜大学医学系研究科・医学部 事務長

令和4年度事業報告

●実施事業関係

①MEDCフェローシップ

コース名：メドギフト2022

セッション1：2022年4月4日～4月17日 オンライン

学習者はどのように学んでいるのか？－やる気、関わり、深い学び－

セッション2：2022年4月18日～5月1日 オンライン

教育者は学びをどのように捉えるべきか？－学習者の評価のあり方－

セッション3：2022年5月9日～5月22日 オンライン

教育プログラムをデザインする－魅力あるコースの構築－

ワークショップ：2022年6月3日 オンライン

セッション1～3で学んだ振り返りと教育実践における改善計画に関して仲間とともに考えてまとめる

対象：教員、医療従事者など

期間：3月7日（月）～6月3日（金）

参加者数：18人

②医学教育セミナーとワークショップ

第82回医学教育セミナーとワークショップ(Web開催)

実施日：5月19日（木）～21日（土）

内容：・MEDTaaalk1 研修医と指導医と、それぞれの成長

・MEDTaaalk2 バーチャル空間（oVice）を使おう：偶然性・祝祭性そして喧噪を取り戻せ

・MEDTaaalk3 オンライン学習ツールを駆使しよう！

・WS-1 医療者教育の基本を教職協働で学ぼう

・WS-2 Student supporter meets IRer ～学生支援とIRの協働の可能性を探る～

・WS-3 コミュニケーション教育としての「やさしい日本語」：実践と導入のTips

・WS-4 学務からはじめる医学教育のDX 事例に学ぶ情報のデジタル化

参加者数：136人（内 講師29人）

第83回医学教育セミナーとワークショップin関西医科大学(共催)

実施日：10月28日（金）～29日（土）

内容：・セミナー 深く理解する授業のデザイン－「わかったつもり」を「わかった」へ

・WS-1 コロナ禍における医学生から研修医への移行をどのように支援するべきか？

・WS-2 日本の全医学部において実現可能な医学英語教育の標準モデルを目指して

・WS-3 問題付ICT臨床教材を作ってみよう

・WS-4 模擬患者大交流勉強会

・WS-5 共用試験公的化後のスタンダードな医学教育とは？ 昭和大学の挑戦

・WS-6 IR部門の望ましい規程とは？－より良い規程をみんなで検討しよう－

参加者数：174人（内 講師26人）

第84回医学教育セミナーとワークショップ(Web開催)

実施日：1月26日（木）～28日（土）

- 内 容：・MEDTaaalk1 医学教育コンテンツの共有が目指すべき未来を考える
・MEDTaaalk2 基礎医学系教員に転生したら冒険の書が読めなかった件
～勇者を育てるMEDTaaalk
・ランチタイムWebinar 医療者教育学を学ぶ：ワークショップから修士／博士課程まで
・MEDTaaalk3 IRをもっと楽に～ツールに焦点をあてて
・MEDTaaalk4 What's a Nurse Practitioner (NP) ? : 役割、資格取得方法、臨床実践について
・MEDTaaalk5 VRと看護学教育
・MEDTaaalk6 外科医のサステナブルな成長を可能とする腹腔鏡トレーニング
・WS-1 わたしの学習者支援力をブラッシュアップする！
・WS-2 異文化理解のための「やさしい日本語」：外国人模擬患者養成とプログラム開発
・WS-3 米国ナラティブ・メディスンの世界：アートから学ぶ「関係性の医療」
・WS-4 医療者教育研究、はじめの一步：リサーチクエスチョンを立ててみよう
・WS-5 医療者の卒後教育の礎となる共通コンピテンシーを考えよう
・WS-6 初心者歓迎！－医学教育学研究を教える基礎ゼミ作り

参加者数：161人（内 講師48人）

③ スターターキット

医療者教育機関で働き始めたばかりの教員、職員、あるいはこれから医療者教育学を学んでいきたい方を対象としたeラーニングプログラムで、医療者教育学の基本を学ぶことができる。

本年度開催の第23回教務事務研修にて視聴した事務職員から、ぜひ所属大学で活用したいとの意見が多数寄せられ、好評だった。

以前より要望があった金沢医科大学において、多数の方が受講されました。

今後も大学単位での受講にも対応し、多くの方にご活用いただき、全国展開を目指します。

④ 第23回国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修(Web開催)

主 催：国立大学医学部長会議常置委員会
(教育制度・カリキュラムに関する小委員会)
一般社団法人 全国医学部長病院長会議
(医学教育委員会・カリキュラム調査専門委員会)

実施日：5月21日（木）～22日（金）

内 容：医学・歯学教育の改革がこれまでにないスピードで行われている現状を踏まえて、医学・歯学教育に関する現状と教務事務に関する理解を深め、医学部・歯学部の教務事務職員としての資質の向上を図ることにより、各国公立大学における円滑な教務事務の進展に寄与することを目的として、講義、全体・班別討議等を行い、知識と理解を深める。

参加者数：35人

⑤ 客員教授等招聘

海外客員教授：コロナ禍により招聘せず

国内客員教授：岡崎史子（東京慈恵会医科大学教育センター 准教授）
（2023年1月～ 新潟大学医学部医学教育センター 教授）

- ・ 医学部医学科講師
ライフサイクル

国内客員准教授：藤江里衣子（藤田医科大学医学部医学科 講師）

- ・ 医療者教育学専攻 講師
教育理論と効果的な教育方法

⑥ 初心者向けチューター研修会（FD）

ファシリテーションスキルのオンデマンド学習動画
アクティブラーニングの方法のオンデマンド学習動画

⑦ 医学教育教材の研究・開発

指導者養成部門

- ・ 医療指導者のキャリア支援及び教育力の開発

教育開発学部門

- ・ 医療者教育の教育法，プログラム及び評価法の開発

⑧ 学外的対応：各種会議等での講演及び学外へのノウハウ提供

大学（病院含む）、国内外の医療系教育学会、医師会等に招聘され講演等を実施した
遠隔医療教育、多職種連携教育、学習者支援等の多岐にわたる内容を伝達した
報道等で広く市民にも活動の一端を公開した

●会議開催関係

1. 岐阜大学医学教育開発研究センター運営協議会

	開 催 日
第1回	令和4年12月2日（金）

2. 岐阜大学医学教育開発研究センター運営委員会

	開 催 日
第1回	令和5年1月4日（水）
第2回	令和5年2月20日（月）

業 績

著書（和文）

- 1) 今福輪太郎 分担執筆. 第1部現状と振り返り 29.医学教育研究. 医学教育白書. 日本医学教育学会監修, 広報・情報基盤委員会編集, 東京, 篠原出版新社, 2022年:106-111.
- 2) 西屋克己・藤崎 和彦 分担執筆. 第1部現状と振り返り 30.認定医学教育専門家制度. 医学教育白書. 日本医学教育学会監修, 広報・情報基盤委員会編集. 東京, 篠原出版新社, 2022年:112-114.
- 3) 恒川幸司 分担執筆. 第1部現状と振り返り 31.医学教育担当部門の現状. 医学教育白書. 日本医学教育学会監修, 広報・情報基盤委員会編集. 東京, 篠原出版新社, 2022年:115-117.
- 4) 川上ちひろ 分担執筆. 第2部新たな展開 10.学生支援. 医学教育白書. 日本医学教育学会監修, 広報・情報基盤委員会編集. 東京, 2022年:205-211.
- 5) 藤崎 和彦 分担執筆. 第5部日本医学教育学会の活動 4.医学教育専門家委員会. 医学教育白書. 日本医学教育学会監修, 広報・情報基盤委員会編集. 東京, 篠原出版新社, 2022年:382.
- 6) 泉美貴・恒川幸司 分担執筆. 第5部日本医学教育学会の活動. 10.教育プログラム評価推進委員会. 医学教育白書. 日本医学教育学会監修, 広報・情報基盤委員会編集. 東京, 篠原出版新社, 2022年:389.
- 7) 鈴木康之. 第5部日本医学教育学会の活動 29.第19期・第20期の活動を振り返って. 医学教育白書. 日本医学教育学会監修, 広報・情報基盤委員会編集. 東京, 篠原出版新社, 2022年:406-408.
- 8) 西城卓也 分担執筆. 第5部日本医学教育学会の活動 28.若手による医学教育とそのキャリア支援部会. 医学教育白書. 日本医学教育学会監修, 広報・情報基盤委員会編集. 東京, 篠原出版新社, 2022年:405.
- 9) 西城卓也 分担執筆. 9.ポストコロナで求められる同期/非同期型臨床教育. COVID-19 神経ハンドブック 急性期, 後遺症からワクチン副反応まで—電子版付—. 下畑享良 編著. 東京, 中外医学社, 2022年:291-298.
- 10) 川上ちひろ 分担執筆. 第10章発達障害児者の家族支援ニーズの実態と課題. 発達障害者支援の現状と未来—早期発見・早期療育から就労・地域生活支援まで. 市川宏伸 監修 内山登紀夫・辻井正次・田中 康雄編集. 東京, 中央法規出版, 2022年:264.
- 11) 川上ちひろ 分担執筆. 看護教育 電子別冊「発達障害など, 対応が難しいと感じる学習者への教育・支援」—電子版—. 『看護教育』編集室編集. 東京, 医学書院, 2022年
- 12) 川上ちひろ, 木谷秀勝. 発達障害のある女の子・女性の支援:「自分らしく生きる」ための「からだ・こころ・関係性」のサポート—電子版—. 東京, 金子書房, 2022年
- 13) 川上ちひろ, 木谷秀勝. 続・発達障害のある女の子・女性の支援:自分らしさとカモフラージュの狭間を生きる—電子版付—. 東京, 金子書房, 2022年
- 14) 川上ちひろ 分担執筆. 第7章 女の子のグループ活動からみるいじめ予防. 発達障がいといじめ 発達の多様性に応える予防と介入, 小倉 正義 編著. 東京, 学苑社, 2023年
- 15) 藤崎 和彦 分担執筆. 特集 医療における対話とコミュニケーション 1.医療現場におけるコミュニケーション教育の現状と課題. PROGRESS IN MEDICINE. 東京, ライフ・サイエンス, 2022:9-14.

総説 (和文)

- 1) 鈴木康之. これからの小児科医・アフターコロナでの小児科医の役割. 東京小児科医会報 2022, 41(1):19-23.
- 2) 今福輪太郎. シミュレーション医療教育の未来に向けて一開拓者のメッセージからの学び. 日本シミュレーション医療教育学会雑誌 2022, 10 : 22-23.

原著 (和文)

- 1) 川上ちひろ, 今福輪太郎, 早川佳穂, 恒川幸司, 牛越博昭, 西城卓也. オンライン授業による地域体験実習の試み～医学科1年生が地域の人と交流し、地域のことを知る～. 岐阜大学教育推進・学生支援機構年報 2022, 7 : 46-56.

原著 (欧文)

- 1) Rintaro Imafuku, Kaho Hayakawa, Takuya Saiki. Text analysis of personal statements written in English by Japanese medical students. *The Asia Pacific Scholar* 2022 Apr;7(2):51-55.
doi:10.29060/ taps.2022-7-2/ sc2710
- 2) Mayumi Aono, Haruo Obara, Chihiro Kawakami, Rintaro Imafuku, Takuya Saiki, Michael A Barone, Yasuyuki Suzuki. Do programme coordinators contribute to the professional development of residents? an exploratory study. *BMC medical education* 2022 May;22(1):381-381.
doi:10.1186/ s12909-022-03447-y
- 3) Yuta Sato, Yoshihiro Tanaka, Shinya Ohno, Masahide Endo, Naoki Okumura, Nobuhisa Matsuhashi, Takao Takahashi, Takuya Saiki, Kazuhiro Yoshida. Right top pulmonary vein is a venous anomaly of which surgeons should be aware in subcarinal dissection for thoracoscopic esophagectomy: a case report and literature review. *World journal of surgical oncology* 2022;20(1):160-160.
doi:10.1186/ s12957-022-02635-w
- 4) Rintaro Imafuku, Takuya Saiki, Robyn Woodward-Kron. Revisiting discourse analysis in medical education research. *International Journal of Medical Education* 2022 May;13:138-142.
doi:10.5116/ ijme.6278.c1b7
- 5) Chihiro Kawakami, Rintaro Imafuku, Takuya Saiki. Difference between perceptions of preceptors and newly graduated nurses regarding delay in professional growth: a thematic analysis. *BMC medical education* 2022 Jul;22(1):563-563.
doi:10.1186/ s12909-022-03617-y
- 6) Tomoko Miyoshi, Fumiko Okazaki, Jun Yoshino, Satoru Yoshida, Hiraku Funakoshi, Takayuki Oto, Takuya Saiki. The need for researching the utility of R2C2 model in Cross-Cultural and Cross-Disciplinary settings. *The Asia Pacific Scholar* 2022;7(4):86-87.
doi:10.29060/ taps.2022-7-4/ le2816
- 7) Mari Asakawa, Rintaro Imafuku, Chihiro Kawakami, Kaho Hayakawa, Yasuyuki Suzuki, Takuya Saiki. Promoting a culture of sharing the error: A qualitative study in resident physicians' pro

- cess of coping and learning through self-disclosure after medical error. *Frontiers in Medicine* 2022 oct,9. doi:10.3389/ fmed.2022.960418
- 8) Kazunori Ganjitsuda, Masami Tagawa, Kazuya Tomihara, Takuya Saiki, Makoto Kikukawa, Akit eru Takamura, Hitoaki Okazaki, Yasushi Matsuyama, Rika Moriya, Hiroki Chiba, Yasushi Takagi, Hitoshi Setoyama, Akihiro Tokushige, Hidetaka Yokoh. Long-term clinical clerkship improves medical students' attitudes toward team collaboration. *International journal of medical education* 2022,13:274-286. doi:10.5116/ ijme.633f.e97a
- 9) Yukiko Nagatani, Rintaro Imafuku, Yukie Nakai. Broadening the dental hygiene students' perspectives on the oral health professionals: A text mining analysis. *Dentistry Journal* 2022 Aug,10 (9):160-160. doi:10.3390/ dj10090160
- 10) Rintaro Imafuku, Yukiko Nagatani, Masaki Shoji. Communication management processes of dentists providing healthcare for migrants with limited Japanese proficiency. *International Journal of Environmental Research and Public Health* 2022 Nov,19(22):14672-14672. doi:10.3390/ijerph192214672
- 11) Koji Tsunekawa, Michiyo Nakashima, Toshiki Shioiri: Reliability and Validity of the Multiple Mini Interview in the General Entrance Examination for Medical Schools at a National University. *Proceedings - 2022 12nd International Congress on Advanced Applied Informatics, IIAI Letters on Institutional Research*, 17, 2022. doi:10.52731/ lir.v001.01

その他論文

- 1) 鈴木康之, 宮入 烈, 足立壯一, 清水俊明, 高村昭輝, 土井庄三郎, 西屋克己, 松原知代, 三浦健一郎, 吉川哲史, 大田千春, 嶋岡 鋼, 森尾友宏, 森岡一朗, 和田和子, 高橋尚人. 日本小児科学会専門医制度運営委員会報告(1) 小児科専門医の職責・貢献・勤務実態に関する調査研究報告第1報: ウェブアンケート集計結果. *日本小児科学会雑誌* 126: 1557-1569, 2022
- 2) 鈴木康之, 宮入 烈, 足立壯一, 清水俊明, 高村昭輝, 土井庄三郎, 西屋克己, 松原知代, 三浦健一郎, 吉川哲史, 大田千春, 嶋岡 鋼, 森尾友宏, 森岡一朗, 和田和子, 高橋尚人. 日本小児科学会専門医制度運営委員会報告(2) 小児科専門医の職責・貢献・勤務実態に関する調査研究報告第2報: 小児科専門医の全国動態. *日本小児科学会雑誌* 126: 1570-1580, 2022
- 3) 西城卓也, 今福輪太郎, 下畑享良. 脳神経内科領域における医学教育の展望: POST/ WITH コロナ時代を見据えて (VOL. 16) POST/ WITH コロナ時代で見えてくる海外の動向とわが国の方向性—医学教育のレビューと連載のまとめ. *BRAIN AND NERVE* 2022, 7(12): 1417-1422.
- 4) 西城卓也, 操奈美. 臨床指導医とは: その能力と養成について. *臨床麻酔* 47 (573) 2023

研究費

- 1) 研究代表者：今福輪太郎；日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 C：外国人患者と医療者の調整行動に着目した医療のための「やさしい日本語」教育の開発。2020 - 2024 年度；4,290 千円（1,300：1,170：910：910 千円）
- 2) 研究代表者：鈴木康之，分担研究者：武田裕子・西城卓也・恒川幸司；日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 B：我々は将来の医療を誰に託すのか？：医学部入学者の社会的背景の解明。2020 - 2022 年度；9,000 千円（3,800：2,600：2,600 千円）
- 3) 研究代表者：西城卓也；日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 B：医学教育・研修部門の機能、及び専任スタッフの役割とアイデンティティに関する研究。2021 - 2022 年度；7,410 千円（2,990：2,600 千円）
- 4) 研究代表者：中島美千世，分担研究者：恒川 幸司，塩入 俊樹；日本学術振興会 科学研究費助成事業 挑戦的研究（萌芽）：高大接続に基づくベストミックス評価選抜法の開発：来るべき大学入試改革を見据えて。2019 - 2022 年度；4,900 千円（3,500：800：600 千円）

学会等の開催

西城卓也

- 1) 第 23 回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会：講師（2022.6，岐阜）
- 2) 第 24 回岐阜県医師育成・確保コンソーシアム臨床研修指導医講習会：講師（2022.12，岐阜）

藤崎和彦

- 1) 第 17 回 RIAS トレーニングワークショップ：会長（2022.8.25-26）
- 2) 第 1 回医療コミュニケーション学会：会長（2022.10.2）
- 3) 第 41 回医療コミュニケーション学会研究例会：会長（2023.3.5）

学会招待講演，招待シンポジスト，座長

西城卓也

- 1) 座長；学生や若手を学術大会に連れていきたいんですがどうすればいいんでしょうか？。第 54 回日本医学教育学会大会（2022.8.6，群馬）
- 2) 招待講演；受賞者講演「これまでとこれからの 10 年」。第 54 回日本医学教育学会大会（2022.8.6，群馬）
- 3) 招待講演；Enhancing medical students' engagement in their learning after the COVID-19 pandemic. Annual meeting of the Taiwan Association of Medical Education（2022.11.5，オンライン）
- 4) 招待講演；20 年後の社会を想定した資質・能力の改訂(2)—情報・科学技術を活かす能力。令和 4 年度文部科学省 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業医学教育モデル・コア・カリキュラム令和 4 年度改訂版に関するシンポジウム（2023.1.20，オンライン）
- 5) 招待講演；医学部での ICT を使用した教育について。第 33 回日本医学看護学教育学会 学術集会 教育シンポジウム I（2023.3.11，愛知）

藤崎和彦

- 1) 招待講演 ; Communication skills in inter-professional collaboration. The 21st Asian Conference on Clinical Pharmacy (2022.2.12,Nagoya)
- 2) 招待講演 ; 藤崎 和彦. 学生の能動的学びをサポートする教育者のあり方. 第 47 回全国助産師教育協議会全国研修会 (2022.2.26-2022.3.7 オンライン)
- 3) 招待講演 ; 多職種連携に求められる薬剤師のコミュニケーション. 日本薬学会第 142 年会 (2022.3.28, 名古屋)
- 4) 招待講演 ; 実践的栄養学教育. 第 11 回日本栄養学教育学会学術総会 招待講演 II (リモート講演), (岡山 2022.9.15)
- 5) 座長 ; 医療者におけるメンタリング. Health Communication Week 2022 第 2 回日本メディカルコミュニケーション学会学術集会 (2022.10.1)
- 6) 大会長・座長 ; 医療における対人コミュニケーション研究の現状と課題. Health Communication Week 2022 第 1 回日本コミュニケーション学会学術集会 (2022.10.2)

鈴木康之

- 1) 招待シンポジスト ; 鈴木康之、高橋尚人. 小児科専門医の職責・貢献・勤務実態に関する調査研究 : 中間報告. 総合シンポジウム 8 「小児科医の未来、子ども達の未来～これからの小児科医の役割と働き方」. 第 125 回日本小児科学会学術集会 (2022.4.15-17, 郡山)

今福輪太郎

- 1) 招待講演 ; 受賞者講演 受賞論文の紹介と今後の展望」第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.6, 群馬)
- 2) 招待講演 ; 今福輪太郎. 談話分析の可能性－医療者教育研究の動向を踏まえて. 医療における対人コミュニケーション研究の現状と課題 (2022.10.2, 名古屋)
- 3) 座長 ; 今福輪太郎. 一般演題④ 医学教育・評価. 第 10 回日本シミュレーション医療教育学会学術大会 (2022.10.22, オンライン)
- 4) 招待シンポジスト ; 今福輪太郎. シミュレーション教育の学術的な発展に向けて－一人文・社会学分野の視点から. 第 18 回 日本医学シミュレーション学会学術集会 (2023.1.7, 和歌山)

学会・研究会 一般演題

- 1) 阿部恵子, 後藤道子, 早川佳穂, 吉田登志子, 井上千鹿子. 多様性の時代に対応できる医療者育成 : 模擬患者参加型 医療面接教育に患者の個別性をどう盛り込むか. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.4, 群馬)
- 2) 守屋 利佳, 藤崎 和彦, 伊藤 彰一, 椎橋 実智男, 高村 昭輝, 高橋 誠. 臨床研修および臨床実習の評価 : EPOC2 と CC-EPOC、 LMS との連動－現状と目指すもの. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.4, 群馬)
- 3) 恒川幸司, 中村真理子, 岡田聡志, 浅田義和, 菰田孝行, 柿崎真沙子, 佐藤麻紀, 椎橋実智男. 第 4 回医療系 IR 友の会ミーティング. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.4, 群馬)

- 4) 恒川幸司. オンデマンドシンポジウム「IR による持続可能な教育プログラム評価」 Institutional Effectiveness (IE) とは?～実践例を基にして. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.5 - 6, 群馬)
- 5) 恒川幸司, 中島美千世, 塩入俊樹. ディプロマポリシーにおける共通性の検討～大学間共有可能な指標の設定に向けて. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.5 - 6, 群馬)
- 6) 船越拓, 恒川幸司, 今福輪太郎, 西城卓也. マーストリヒト臨床教育評価表を用いた指導医評価がいかにか自己成長につながるかに関する質的研究. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.5 - 6, 群馬)
- 7) 鈴木康之, 川上ちひろ, 早川佳穂, 恒川幸司, 今福輪太郎, 武田裕子, 西城卓也. 医学生の社会的背景に関する研究 (2): 市民・教育関係者の認識. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.5 - 6, 群馬)
- 8) 村瀬要, 大井海人, 大島尚己, 外山慧, 川上ちひろ, 早川佳穂, 西城卓也, 今福輪太郎, 医学生のオンラインテュートリアルに対する認識. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.5 - 6, 群馬)
- 9) 今福輪太郎, 川上ちひろ, 早川佳穂, 西城卓也. 初年次医学生と外国人市民の交流実習における会話内容の分析. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.5 - 6, 群馬)
- 10) 早川佳穂, 川上ちひろ, 今福輪太郎, 藤崎和彦, 西城卓也. 医学生とのコミュニケーションを市民はどう捉えたか. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.5 - 6, 群馬)
- 11) 鈴木康之, 恒川幸司, 武田裕子, 西城卓也. 医学生の家庭・社会的背景に関する研究 (1): 家庭背景に関するウェブアンケート結果. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.5 - 6, 群馬)
- 12) 岡崎史子, 西城卓也, 石橋由朗. 外来研修準備教育とその効果についての検討. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.5 - 6, 群馬)
- 13) 三好 智子, 大戸 敬之, 岡崎 史子, 船越 拓, 吉田 暁, 芳野 純, 西城 卓也. R2C2 モデルを使って、学習者の実践に繋げる振り返りをしよう. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.5 - 6, 群馬)
- 14) 赤嶺 陽子, 岡崎 三枝子, Mieko Okazaki, 鈴木 康之, 今福 輪太郎, 西城 卓也. 医学教育における無意識のバイアス. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022. 8. 5 - 6, 群馬)
- 15) 瀬戸山陽子, 川上ちひろ, 青木昭子, 堀田亮. 障害のある医療系学生 / 医療職と共に学び / 働く環境づくりに向けて～現場での困りごとから、いま何が問題かを考える～. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022. 8. 5 - 6, 群馬)
- 16) 川上ちひろ, 恒川幸司, 堀田 亮, 菰田孝行, 瀬戸山陽子. Student supporter meets IRer ～学生支援と IR の協働の可能性を探る～. 第 82 回医学教育セミナーとワークショップ (2022.5.20)
- 17) 大久保 由美子, 田川 まさみ, 藤倉 輝道, 片岡 仁美, 今福 輪太郎, 武富 貴久子, 石川 ひろの, 菊川 誠. 医学教育研究の基本を学ぶワークショップ. 第 54 回日本医学教育学会大会 (2022.8.5 - 6, 群馬)
- 18) Rintaro Imafuku, Yukiko Nagatani, Masaki Shoji. Lost in translation? Communication management process of health professionals in foreign resident patient encounters in Japan .Association for Medical Education in Europe (AMEE) Conference (2022.8.29)

- 19) 堀田亮, 川上ちひろ. 専門職養成における発達障害者支援 医療者教育で必要な支援を考える (2022.9.4, オンライン)
- 20) 川上ちひろ. 臨床でみられる教育が難しく支援が必要な医療者. 第 17 回医療の質・安全学会学術集会 (2022.11.26, 神戸)

他大学 FD・その他

西城卓也

- 1) 順天堂大学 医学部における学修困難者や臨床実習におけるアンプロフェッショナル〜その対応について〜: 講師 2022.10.14
- 2) 岐阜県美術館 ~ながラー鳥瞰図 2023 ナンヤロネフォーラム vol.3:「アート?×医療?私たちが地域でできる事ってナンヤローネ?」; 講師 2023.1.14.
- 3) 県北西部地域医療センター国保白鳥病院セミナー: 多職種で取り組める学生・研修医向け地域医療教育: そのままで大丈夫! ; 講師 2023.3.9.
- 4) 大阪医科薬科大学 RESIDENT AS TEACHERS FELLOWSHIP セミナー: RATs 後の世界: 大学院を中心に: 講師 2023.3.5

藤崎和彦

- 1) 公益財団法人医療研修推進財団 令和 4 年度理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会: 臨床教育学; 講師 2022.8.5-9.3
- 2) 公益社団法人日本視能訓練士協会 2022 年度専門教育プログラムⅢ: 生涯教育制度 専門教育プログラムⅢ; 講師 2022.6
- 3) 日本視能訓練士協会 2022 年度専門教育プログラムⅢ; 研修世話人 (2022.6.1-30)
- 4) 神戸学院大学薬学部教員 F D 研修会; 世話人 (2022.5.29)
- 5) 神戸学院大学薬学部教員 F D 研修会; 世話人 (2022.6.12)
- 6) 共用試験実施評価機構医学系 OSCE 標準模擬患者新規養成講習会・認定講習会; 世話人 (2022.7.9-10)
- 7) 共用試験実施評価機構医学系 OSCE 模擬患者標準化担当者養成講習会; 世話人 (2022.7.28)
- 8) 第 49 回医療研修推進財団理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設等教員講習会; 世話人 (2022.8.20)
- 9) 共用試験実施評価機構医学系 OSCE 第 2 回標準模擬患者認定講習会; 世話人 (2022.9.10)
- 10) 岐阜大学医学部看護学科・看護学専攻 FD 委員会令和 4 年度第 1 回研修会; 世話人 (2022.9.13)
- 11) 共用試験実施評価機構医学系 OSCE 第 2 回模擬患者標準化担当者養成講習会; 世話人 (2022.11.28)
- 12) 令和 4 年 12 月 10 日 共用試験実施評価機構医学系 OSCE 第 3 回標準模擬患者認定講習会世話人
- 13) 信州大学医学部看護学科・看護学専攻 FD 委員会研修会; 世話人 (2023.1.18)
- 14) 神戸学院大学薬学部教員 F D 研修会; 世話人 (2023.3.9)
- 15) 共用試験実施評価機構医学系 OSCE 標準模擬患者新規養成講習会・認定講習会; 世話人 (2023.3.11-12)
- 16) 第 14 回歯科医療人のためのファシリテータ養成セミナー「行動変容編」2022; スーパーバイザー (2023.3.18)

川上ちひろ

- 1) 岐阜大学医学部附属病院看護部 「みんなで取り組もう新人教育 新人の現状と教育方法、その評価」：新人看護師が一人立ちするまでの道のりをサポートする；講師 2022.5.20.
- 2) 長崎県看護キャリア支援センター 令和4年度看護教員・施設教育担当者研修：大人の発達障害への上手な関わり方～事例から理解を深める～；講師 2022.5.28.
- 3) 長崎県看護キャリア支援センター 令和4年度模擬患者フォローアップ研修：模擬患者フォローアップ研修～模擬患者としての学生への接し方～；2022.5.29.
- 4) 国立障害者リハビリテーションセンター 令和4年度知的障害支援者専門研修会：知的障害児者の性と関係性；講師 2022.6.23.
- 5) 国立障害者リハビリテーションセンター 令和3年度知的障害支援者専門研修会：性と関係性について；講師 2022.6.24.
- 6) 岐阜県立飛騨特別支援学校 性に関する指導講話：「おつきあいの方程式」よりよい人間関係をつくるには；講師 2022.7.6.
- 7) 岐阜県立不破高等学校 性に関する講話：人間関係とは；講師 2022.7.7.
- 8) 岐阜県立下呂特別支援学校 性に関する指導講話：「おつきあいの方程式」よりよい人間関係をつくるには；講師 2022.7.20.
- 9) 山口大学教育学部 第4回ガールの集い：プログラム①②相談室；講師 2022.7.23-24.
- 10) 熊本市発達障がい者支援センターみなわ 発達障害児・家族のための研修：発達障害と性教育～性と関係性の支援について～；2022.7.29.
- 11) 全国国立病院附属看護学校 副学校長・教育主事協議会関東信越支部 令和4年夏期研修会：対応が難しいと感じる学生へのかかわり方；講師 2022.8.1.
- 12) 愛知県看護教育研究会 令和4年度夏期研修会：発達障害など対応が難しい学生への教育・支援；講師 2022.8.8.
- 13) 愛知県立総合看護専門学校 令和4・5年度愛知県教務主任養成講習会：合理的配慮が必要な学生への支援～対応が難しいと感じる学習者への教育・支援～；講師 2022.8.9.
- 14) 平塚市教育委員会子ども教育相談センター 令和4年度第6回教育相談・支援教育研修会：発達に課題がある児童・生徒に必要な性の指導；講師 2022.8.10.
- 15) 近畿特別支援学校知的障害教育研究協議会 健康安全部分科会 第46回近畿特別支援学校知的障害教育研究大会「京都大会」：性と関係性の教育；講師 2022.8.18.
- 16) 滋賀県看護学校協議会 講演会：対応が難しい学生への教育・支援 発達障害その他など診断されておらず、本人に自覚がない場合の教育・支援について；講師 2022.8.20.
- 17) 公益社団法人 岐阜県看護協会 看護研修会：「聴き方」「伝え方」「信頼関係づくり」～患者さんとのコミュニケーション～；講師 2022.8.25.
- 18) 関市立田原小学校 夏季校内特別支援研修：みんな、いろいろ～多様性を認め合う学校～；講師 2022.8.26.
- 19) 羽島特別支援学校 性に関する講話：「おつきあいの方程式」よりよい人間関係をつくるには；講師 2022.9.1.

- 20) 摂南大学看護学部 模擬患者養成プログラム フォローアップ研修：模擬患者からのフィードバックの在り方；講師 2022.9.3.
- 21) 岐阜県立大垣特別支援学校 教員向け研修会：家庭と学校との性教育の連携～保護者にどうアプローチしていくか～；講師 2022.9.14.
- 22) 岐阜県立恵那特別支援学校 性に関する指導講話：「おつきあいの方程式」よりよい人間関係をつくるには；講師 2022.9.22.
- 23) 株式会社金子書房 金子総合研究所 オンラインセミナー：発達障害のある若者の「性」の成長にまつわる問題；講師 2022.9.23.
- 24) 兵庫県看護協会 神戸中部支部研修会：発達障害の特性がある看護師への支援「臨床の場面において、発達障害の特性があり、対応が難しいスタッフへの支援を学ぶ」；講師 2022.9.24.
- 25) 『エール』鳥取県発達障がい者支援センター 令和4年度発達障がい普及啓発研修会：成人期の性と関係性；講師 2022.10.13～2022.11.11.
- 26) 岐阜県教育委員会 令和4年度発達障がい支援担当教員養成研修講座：発達障がいのある子の性教育；講師 2022.10.19.
- 27) 長野県教育委員会 令和4年度性に関する指導・がん教育ミニ研修会（第3回）：特別支援教育が必要な子どもたちへの性の支援；2022.11.11.
- 28) 徳島県発達障がい者総合支援センター ハナミズキ ペアレント・メンター養成研修 応用講座プログラム：グループ活動の中でのサポート～女の子グループを中心に～；講師 2022.11.13.
- 29) 岐阜県立西濃高等特別支援学校 性に関する指導講話：「おつきあいの方程式」よりよい人間関係をつくるには；講師 2022.11.25.
- 30) 日本赤十字看護大学地域連携フロンティアセンター 実習指導者研修会：発達障害及びその特性をもつ看護学生の理解と実習指導；講師 2022.11.28.
- 31) 静岡県高等学校障害児学校教職員組合 性の学習会：障害のある子どもたちの性；講師 2022.12.10.
- 32) なごや職業開拓校 家族講習会：よりよい人間関係（にんげいかんけい）をつくるための「おつきあいのしかた」をかんがえる 女性編；講師 2022.12.14.
- 33) 日本赤十字豊田看護大学専門職向け研修会：対応に配慮が必要な看護師の育成；講師 2022.12.17.
- 34) 名古屋女子大学健康科学部看護学科 FD：指導困難な看護学生への学修指導について；講師 2022.12.23.
- 35) 岐阜県知的障害者支援協会「障害児通所支援分科会」 研修会：幼児期の子どもたちの性・人間関係の育ちに大切なこと；講師 2023.1.4.
- 36) 浜松市障害者更生相談所 施設職員等研修会：知的障害児者の性と関係性の教育；講師 2023.1.12.
- 37) 岐阜県美術館 ～ながラー鳥瞰図 2023 ナンヤロネフォーラム vol.3:「アート？×医療？私たちが地域でできる事ってナンヤローネ？」；講師 2023.1.14.
- 38) なごや職業開拓校 家族講習会：よりよい人間関係（にんげいかんけい）をつくるための「おつきあいのしかた」をかんがえる 男性編；講師 2023.1.18.
- 39) 鈴鹿市第1療育センター 療育研修会：発達障がいのあるお子さんへの性教育について；講師 2023.2.2.
- 40) 日本小児保健協会 第7回多職種のための発達障害の研修会（WEB開催）：発達障害と性の課題 具

体的なケースから考える思春期の支援；講師 2023.2.5.

- 41) 国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害地域生活・就労支援者研修会：成人期の性と関係性；講師 2023.2.7.
- 42) 広島市発達障害者支援センター 啓発研修：発達障害のある人の性と人間関係；講師 2023.2.9.
- 43) 摂南大学看護学部 臨床指導者研修会：発達障害など、対応が難しいと感じる新人看護師・学習者への教育・支援；講師 2023.3.15.
- 44) 崇城大学薬学部 令和4年度崇城大学薬学部第4回FD講演会：医療者養成機関における合理的配慮が必要な学生に対する基本的理解とその支援；講師 2023.3.17.
- 45) 香川県発達障害者支援センター「アルプスカガワ」発達障害者地域支援体制強化事業一般公開講座：発達障害のある児者への性教育；講師 2023.3.19.
- 46) 沖縄県立中部病院 看護師（師長・副看護師長・教育委員・プリセプター）対象の研修会：新人看護師の教育、支援；講師 2023.3.29.

恒川幸司

1. 令和3年度 愛知学院大学歯学部・大学院歯学研究科 歯科医学教育者のためのセミナーとワークショップ：医学系共用試験のUP-TO-DATE～IRT（ITEM RESPONSE THEORY）・公的化・SP（模擬患者）認定をトピックスとして（オンデマンド）；2022.3.
2. 九州大学医学教育 IR室 FD：医学教育におけるIRについて①～組織・基盤作り編.（オンライン）；2022.7.13.
3. 第5回研修ゲーム座談会：「医学教育におけるゲームの利活用」一般向け講演.（オンライン）；2022.8.3
4. 九州大学医学教育 IR室 FD：医学教育におけるIRについて②～情報管理・倫理・その他の課題編.（オンライン）；2022.9.6.

学術賞等の受賞

西城卓也

一般財団法人日本医学教育学会 日野原賞第15号（2022.08）

今福輪太郎

公益財団法人 医学教育振興財団 懸田賞（2022.08）

学術雑誌

西城卓也

- 1) 日本医学教育学会 編集委員会；副編集長（～現在）
- 2) KOREAN JOURNAL OF MEDICAL EDUCATION; EDITORIAL BOARD（2017年～現在）

今福輪太郎

- 1) 日本シミュレーション医療教育学会；編集委員（2013年～現在）
- 2) BMC Medical Education; Associate Editor（2015年～現在）

- 3) 日本医学教育学会 編集委員会；編集委員(2019年～現在)
- 4) 新しい医学教育の流れ；編集委員(～現在)

早川佳穂

- 1) 新しい医学教育の流れ；編集委員(～現在)

學術学会の役員, 委員等

西城卓也

- 1) 日本プライマリ・ケア連合学会：中部地区代議員
- 2) 一般社団法人日本医学教育評価機構：評価員
- 3) 日本医学教育学会：代議員、理事、学会誌編集委員会 副委員長、研究推進委員会 オブザーバー、医学教育モデル・コア・カリキュラム調査研究特別委員会 委員、若手による医学教育とそのキャリア支援部 部会長

藤崎和彦

- 1) 日本医学教育学会：理事，評議員，医学教育専門家委員会 委員長，医学教育専門拡大 WG 委員会 委員長
- 2) RIAS 研究会日本支部：代表
- 3) 日本医療福祉政策学会：幹事
- 4) 日本保健医療行動科学会：顧問
- 5) 大学イノベーション日本：幹事
- 6) 日本ヘルスコミュニケーション関連学会機構理事・代議員
- 7) 日本メディカルコミュニケーション学会運営委員
- 8) 日本医療コミュニケーション学会会長
- 9) 日本ヘルスコミュニケーション関連学会機構優秀論文賞選考委員会委員長

鈴木康之

- 1) 日本医学教育学会：監事
- 2) 日本小児科学会：小児科サブスペシャリティ領域協議会委員長
- 3) 日本先天代謝異常学会：監事（～2022.11 まで）
- 4) 日本ムコ多糖症研究会：代表幹事（～2022.8 まで）
- 5) 日本小児医学教育研究会 幹事

今福輪太郎

- 1) 日本シミュレーション医療教育学会：評議員、理事（編集担当）
- 2) 日本医学教育学会 研究推進委員会：委員
- 3) 日本歯科医学教育学会：代議員
- 4) 全国医学部国際交流協議会 国際活動推進委員会 委員

早川佳穂

- 1) 医療系 e ラーニング全国交流会：世話人
- 2) ヘルスコミュニケーション学関連学会機構 日本医療コミュニケーション学会運営委員

恒川幸司

- 1) 医療系 IR 友の会 代表世話人 (2021年7月～現在)
- 2) 日本医学教育学会 教育プログラム評価推進委員会 副委員長代行 (2020年7月～現在)
- 3) 日本医学教育学会 入学者選抜部会 部会員 (2020年7月～現在)

社会活動

西城卓也

- 1) NPO 法人卒後臨床研修評価機構 サーベイヤー(～現在)
- 2) 京都大学医学部 客員研究員(～現在)
- 3) 医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック 非常勤医師(～現在)
- 4) 清流の国岐阜総合診療専門研修プログラム管理委員会委員(2017年度～現在)
- 5) 愛知医科大学医学部 カリキュラム評価委員会 外部委員 (2019年4月～現在)

藤崎和彦

- 1) 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構：医学系 OSCE 認定標準模擬患者委員会委員
- 2) 医療系大学間共用試験実施評価機構 医学系 OSCE 実施小委員会 模擬患者標準化専門部会 委員 (～現在)
- 3) 大和郡山市 すこやか 21 計画推進委員会 アドバイザー (～現在)
- 4) 藤田医科大学 客員教授 (～現在)
- 5) 兵庫医科大学 特別招聘教授 (～現在)
- 6) 京都府立医科大学 客員講師 (～現在)
- 7) 九州歯科大学 非常勤講師 (～現在)
- 8) 獨協医科大学「デジタル活用教育高度化事業」外部評価委員 (2021年6月～現在)
- 9) 滋賀医科大学 非常勤講師 (～現在)
- 10) 聖隷クリストファー大学 非常勤講師 (～現在)

鈴木康之

- 1) 日本ムコ多糖症親の会 顧問(～現在)
- 2) ALD 親の会 顧問(～現在)
- 3) 一般社団法人 日本医学教育評価機構 評価員

川上ちひろ

- 1) 社会医療法人聖泉会聖十字病院 倫理審査委員会 委員 (2018年～現在)
- 2) 岐阜県立衛生専門学校歯科技工士学科 非常勤講師 (2019年～現在)

- 3) 訪問看護ステーションサーラ 非常勤看護師（保健師）（2007年～現在）
- 4) 岐阜聖徳学園大学 非常勤講師（2021年～現在）

今福輪太郎

- 1) 大垣北高等学校グローバル探究実践事業 担当教員（～現在）

早川佳穂

- 1) 朝日大学歯科衛生士専門学校 非常勤講師（2021年10月～現在）
- 2) 東洋学園国際医学技術専門学校 非常勤講師（2021年4月～現在）
- 3) 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 医学系 OSCE 認定標準模擬患者委員会委員

恒川幸司

- 1) 東洋学園国際医学技術専門学校 非常勤講師（2015年4月～現在）
- 2) 電波学園あいち福祉医療専門学校 非常勤講師（2015年4月～現在）
- 3) 岐阜県立大垣北高等学校 岐阜県立大垣北高等学校 課題研究における講師（2016年7月20日～現在）
- 4) 医療法人かがやき倫理審査委員会 委員（2017年7月～現在）
- 5) 名古屋大学医学部カリキュラム評価（IR）委員会 外部委員（2022年4月～現在）

専門医等

西城卓也

- 1) 厚生労働省臨床研修指導医
- 2) プライマリ・ケア連合学会認定医・認定指導医
- 3) 日本医学教育学会認定医学教育専門家
- 4) 日本専門医機構 総合診療領域 特任指導医

藤崎和彦

- 1) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

鈴木康之

- 1) 日本小児科学会専門医
- 2) 厚生労働省臨床研修指導医
- 3) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

川上ちひろ

- 1) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

恒川幸司

- 1) 日本医学教育学会認定医学教育専門家

報道

- 1) 教育現場に広がる仮想空間 先生はアバター、バーチャルで得る没入感：朝日新聞 DIGITAL (2022.5.28)
- 2) VR リアルの学び後押し 立体模型や実験装置深まる理解 医学生バーチャル手術室で訓練：朝日新聞 (2022.5.29)
- 3) 先生のオペ 5G で間近に 岐阜大とドコモ 配信実験 医学生向け 学習効果アップへ：中日新聞 (2022.6.24)
- 4) 5Gで手術「遠隔実習」 岐阜大とドコモ、新システム 手元鮮明、解説を自動で字幕化：岐阜新聞 (2022.6.24)
- 5) オンラインで初、名大と合同授業 岐阜大医学部：岐阜新聞 (2022.7.4)
- 6) 学びを支援する学習環境の構築を：週刊医学界新聞レジデント号 (2022.7.11)
- 7) 医学部授業、あえてオンライン 医師の目線で実習、遠隔でも「わかりやすい」：朝日新聞 (2022.7.19)
- 8) 発達障害の医療系学生支援 岐阜大がオンラインセミナー：中日新聞 (2022.9.5)
- 9) 発達障害のある女の子の「月経」の悩み 特性に応じたケアが必要です アドバイスは具体的に 当事者同士で話せる場を：東京新聞朝刊 (2022.10.13)
- 10) 発達障害ある女の子「月経」の悩み 特性に合わせたケアを：中日新聞 (2022.10.14)
- 11) <核なきふ> (20) 発達障害学生、医療現場で輝くには 岐阜大の堀田さん、川上さんに聞く：中日新聞 (2022.11.13)
- 12) DX時代の医療 岐阜大でシンポ 来月16日、参加募る：中日新聞 (2022.11.17)
- 13) 研修医、専攻医に効果的な振り返りを促す R2C2 モデルの活用：週刊医学界新聞 (2022.12.5)
- 14) 理論と現場の壁を乗り越え誰もがリーダーシップを発揮する：週刊医学界新聞 (2022.12.19)
- 15) 「社会的処方としてアートの効果に目を」 医療と芸術、関係語らう 日比野館長と岐阜大教授ら 県美術館でフォーラム：岐阜新聞 (2023.1.17)

文教ニュース
2022.4.4・11(月)

岐阜大MEDC

学習者支援に関するウェビナー

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は3月18日、「さまざまな『学習・学習者支援』に関するウェビナーを開催した。

セミナーでは、4名の大学教員を講師として迎え、それぞれの専門分野についてミニレクチャーを行った後、進行役であるMEDCの西城卓也教授、川上ちひろ併任講師とミニ討論を行った。信州大学の清水郁夫先生は、「学習環境や教育者が学習者に与える影響は？」と題して、学習者支援において後回しになりやすい環境や教職者の影響について説明。岐阜大学の堀田亮先生は「学習意欲がわかないのです」と題して、メンタルヘルズに課題がある学習者の理解と支援について、藤田医科大学の藤江里衣子先生は「勉強してもテストに合格できないんです」と題して、学習における記憶のメカニズムと支援方法について解説した。

また、国際医療福祉大学の下井俊典先生は「手先が不器用で技術演習で苦勞します」と題して、医療系職種では不可欠な手先の器用さや習得について、自身の教育経験を織り交ぜながら解説した。

VRリアルの学び後押し

ネット上の仮想空間である「メタバース」に関心が集まる中、東海地方でも関連技術を教育に用いる動きが始まっている。国立大学法人東海国立大学機構が運営する名古屋大と岐阜大は、教育の質を高めるために、授業でVR(バーチャルリアリティ)仮想現実)の技術を活用するなど、身近な現実空間に「仮想」が広がるつつある。

仮想の大講義室

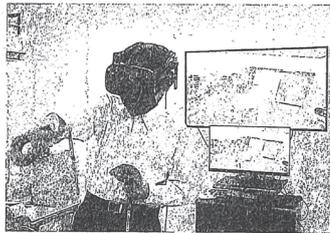
Googleの有名なヘッドマウントディスプレイ(HMD)をつづいて、そこはコンピュータグラフィックスでつくった仮想の大講義室だ。アバターと呼ばれる教員の「分身」が、脳の立体模型を空中で回し、分解するなどの、構造や各部位の役割を説明する。この「仮想講義」のシナリオを開発したのは名古屋大学の長尾博教授(情報学)の研究室。長尾教授は代表取締役を務める大学発ベンチャー「サイブテクノロジー」が創設した。昨年度に名大の一部の授業で試験的に導入した。学生からは「現実の大講義室での授業より先生が近く感じられる」「おおむね好評

だ」といふ。ポイントは没入感だ。新型コロナウイルスの流行で、オンライン講義が導入されるようになったが、仮想空間は動画より集中しやすいといふ。VR講義の立体模型は拡大や分解ができ、「より理解が深まる」と長尾教授は言う。

講義は収録されたもので、好きな時間に視聴できる。「障音や病室などで現実のキャンパスに足を運ばない人はいない。VRでいつでもどこでも教育が受けられる社会をめざしたい」と話す。

コロナ禍では学生の孤独感も問題になった。「サイブテクノロジー」は、実験装置を仮想空間に再現。操作しながら使い方を学ぶ「VR実験シナリオ」も製品化し、名大工学部での導入

立体模型や実験装置 深まる理解



●VR手術シミュレーターを操作する名古屋大メデイカルXRセンターの藤原道隆センター長一名古屋市昭和区同センター
●バーチャル手術室に没入し、胃や肝臓などを立体パズルのように組み立てる名古屋大大学院の森健策教授。ディスプレイに映っているのは森教授が組み立てている人体の腹部模型一名古屋市千種区の名大



医学生 バーチャル手術室で訓練

入準備を進めている。学生のアバター同士が近づく会話もできるため、「リアル」なシミュレーションによる学習意欲の向上も狙う。岐阜大も昨年度、VRで透過型電子顕微鏡の使い方を学ぶアプリを開発した。現実では見えない装置・図の仕組みを再現し、学生の理解を助げる。同工学部の大矢豊教授(材料化学)は「説明書より直感的に学ぶことができる」と語る。医学の世界では、VRを以前から教育に活用。医療従事者や医学生への研修・研究施設の名大メデイカルXRセンターは、2000年代前半からVR手術シミュレーターを用いている。昨年度に導入した機器は、HMDをつけて、バーチャル手術室に「没入」する。藤原道隆・同センター長は「医学生の診療現場における外科の手術は、手動がほとんど。VRで手を動かすことで外科の魅力に気づくこともあろう。マネキンや模型では再現できない病態を、それが効果的なのは学びにつながる」とも指摘。VRは遠隔感やシミュレーションが学びの鍵となっている。野で親和性が高い」と話す。(浦野 佳)

東海国立大学機構は20年、「デジタルユニバーシティ構想」を掲げた。教育や研究などの分野でDX(デジタル化による変革)を進めるもので、VRの教育活用はこれの一環だ。教育へのデジタル技術の活用は詳しいデジタルハリウッド大学の佐藤昌生教授・学長補佐は「若者のほとんどがデジタルネイティブ世代になり、少子高齢化の中でDX化の動きが生まれ、コロナ禍で加わった。変わらざるを得なかった教育分野でも変化が生まれつつある」と話す。一方、「先端技術を教育に活用する場合は、それが効果的なのは学びにつながる」とも指摘。VRは遠隔感やシミュレーションが学びの鍵となっている。野で親和性が高い」と話す。(浦野 佳)

コロナ禍で加速
東海国立大学機構は20年、「デジタルユニバーシティ構想」を掲げた。教育や研究などの分野でDX(デジタル化による変革)を進めるもので、VRの教育活用はこれの一環だ。教育へのデジタル技術の活用は詳しいデジタルハリウッド大学の佐藤昌生教授・学長補佐は「若者のほとんどがデジタルネイティブ世代になり、少子高齢化の中でDX化の動きが生まれ、コロナ禍で加わった。変わらざるを得なかった教育分野でも変化が生まれつつある」と話す。一方、「先端技術を教育に活用する場合は、それが効果的なのは学びにつながる」とも指摘。VRは遠隔感やシミュレーションが学びの鍵となっている。野で親和性が高い」と話す。(浦野 佳)

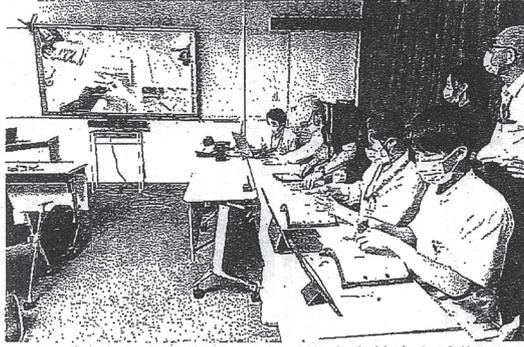
朝日新聞 朝刊25面
2022.5.29(日)

手元鮮明、解説を自動で字幕化

5Gで手術「遠隔実習」

岐阜大とドコモ、新システム

岐阜大（岐阜市柳戸）は、NTTドコモ（東京都千代田区）と、第5世代（5G）移動通信システムを活用した医療者向けの遠隔授業支援システムを確立し、23日に同大で実証実験を行った。学内の別の場所で外科医が行う模擬手術の様子を、医学生らはモニター越しに見学。細部まで高精密な4K映像で映し出される手術の様子を見ながら、模型を使って縫合などの実習も行った。



遠隔授業の実証実験。模擬手術を高精密な映像で見ながら縫合の実習を行う医学生ら＝岐阜市柳戸、岐阜大

コロナ禍以来、医学生の実習に人数や時間制限などが加わった。同大は、同社と遠隔授業や情報通信技術（ICT）を使った対面以外の教育環境の整備を進めてきた。今回の実証実験では、同社の4K映像伝送システム「LiveU」に、同大で開発したリアルタイム字幕生成ソフトも組み合わせ、術者以外の専門医による手術の様子の解説が、

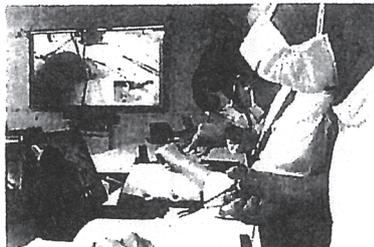
自動で字幕となって映像に表示される機能を加えた。これまでの手術室の実習見学では、学生は術者の頭越しにのぞき込むので、手元の細かい操作まで見られないという問題もあった。4K映像を使えば手術の様子を術者の目線に近いカメラなどで多面的に撮影できる。医療分野で、同社の映像伝送システムを取り入れるのは東海地方初という。

実証実験では、大腸がん摘出を想定した模擬手術を

行った。別の受信場所で専門医が手術の際に注意すべきポイントなどを解説すると、音声も自動で字幕に変換されて映像に追加された。医学部5年の小島一真さん（24）は「術者の手元が詳しく見られて、分かりやすかった」と話した。同大医学部消化器外科の松橋延壽准教授は「年内にも岐阜大病院で医学生らの実習にこのシステムを使いたい。将来的には遠隔地と結んだ医師の研修にも生かせれば」とした。

岐阜新聞 朝刊22面
2022.6.24(金)

先生のオペ 5Gで間近に



5G回線を使って配信された映像を見ながら手術を学ぶ岐阜大医学部の学生たち＝岐阜市で

医学生向け 学習効果アップへ

NTTドコモ東海支社の担当者は「医師不足や過疎地での医療対策といった課題解決の一助になる。顧客のニーズに合った5Gの取り組みを広げていきたい」と話した。

（酒井博章）

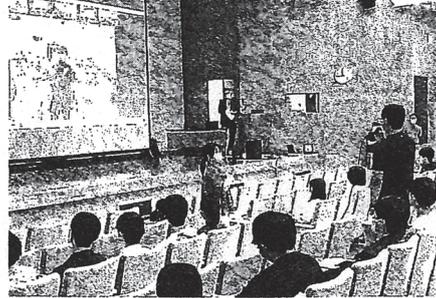
岐阜大（岐阜市）は本年度から、医学部の学生向けに外科手術のオンライン配信を始める。NTTドコモの第五世代（5G）移動通信システムの回線を使用。大容量のデータを遅延なく送れる特性を生かし、専門医による解説の字幕もリアルタイムで付け、学習効果を高める。執刀医が着けるヘッドセットなど複数のカメラで撮影した手術の映像を、5G回線で手術室外にある配信用端末へ送信。映像を見やすく切り替えて、専門医が説明した内容をアプリによって自動で字幕化した映像は重ねる。完成した映像は

岐阜大とドコモ 配信実験

中日新聞 朝刊11面
2022.6.24(金)

ほぼ時間差なく学生たちの端末に配信されるという。岐阜大によると、手術室の実習では通常、学生が執刀医や助手の頭越しに見学するが、手元の細かい動きまでは見えない。新型コロナウイルス感染拡大後は手術室への入室も制限され、見学できない状況が続いたため、前年度から配信を計画してきた。二十三日は実証実験が行われ、模型を使った大腸がんの模擬手術の映像を、離れた教室にいる学生たちが問題なく視聴できることを確認した。参加した医学部5年の小島一真さん（24）は「執刀医の手元がはっきり見え、非常に分かりやすかった」と話した。岐阜大は患者情報保護の観点から、まずは大学病院内で視聴できるように仕組みを整える。

「生殖医療」などをテーマにオンラインで議論を交わす学生たち
岐阜市柳戸、岐阜大



オンラインで初
名大と合同授業

岐阜大医学部

岐阜大医学部医学科は名古屋大医学部とオンラインで結んだ合同授業を行い、1年生105人が「生殖医療」などをテーマに発表と討論を行った。

東海国立大機構に統合して以降、連携授業を行ってきたが、オンラインでつないで同時進行、双方向で授業を行うのは初めて。「論

理的倫理的白熱ディスカッション」と銘打った。事前に二つのテーマをグループワークで進め、選抜のそれぞれ2グループが登壇し発表した。

学生たちは、受精卵の遺伝子を検査する着床前診断の是非、染色体異常の受精卵の間引きは倫理的に正当化できるかを発表し、意見を交わした。

岐阜大医学教育開発研究センター長の西城卓也教授は、高等教育で大学間や学部、職種、ひいては国境のボーダレスが進むとの考えを示し「学生は社会の多様性を、多彩な交流を通じて多彩な学びを得ながら学ぶことが可能になる」と意義を語った。(三輪真大)

Student supporter meets IRer
～学生支援とIRの協働の可能性を探る～



ワークショップ2で意見を交わす参加者

事前に学生支援とIRの動画教材で学び、事前学習の確認としてクイズ形式で回答してもらい、その後、医療系教員・事務職員らの多職種によるグループで、意見を出し合った。教員や事務職員から違った視点で意見を聞くことができ、また同じ悩みを抱えていることを共有するなど、有意義な内容となった。

また、新企画として、「MEDTaalik」を実施した。「MEDTaalik」は、あるテーマに関する講師のミニプレゼンと、それに続く講師とナビゲーターのやり取りの様子を視聴することができるといった新たな企画。参加者はQ&A機能を使って質問をすることもできる。

その第一弾にあたるMEDTaalik1では、講師3氏から卒後の研修医に対して、指導する上での苦勞や指導方法、評価方法などの講演が行われ、さらに、参加者からの質問を交えて活発な議論が展開された。

MEDCでは、医学教育共同利用拠点としてわが国の医療者教育の普及・開発、向上に貢献するため、年3回「医学教育セミナー」とワークショップを開催している。次回第83回は10月28日(金)・29日(土)の2日間、関西医科大学との共催で開催を予定している。

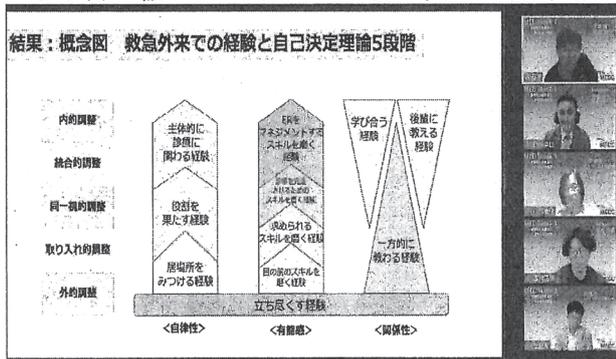
岐阜大医学教育開発研究センター(MEDC)は、第82回医学教育セミナーとワークショップをこのほど3日間にわたりオンラインで開催した。今回は第23回国公私立大学医学部・歯学部教務事務職員研修と同時開催した。

公募を含めた計四つのワークショップと「MEDTaalik」を計三つ実施し、講師を含む総勢171名が参加した。

ワークショップでは、①医療者教育の基本を教職協働で学ぼう、②Student supporter meets IRer、③やさしい日本語など、多彩なテーマについて活発な議論した。テーマのひとつ「Student supporter meets IRer」では、学修や大学生活などの学生支援と学生に関する教学データを融合することによって、より多くの学生を多面的に支援できる環境を醸成するための方法を皆で考えた。

医学教育セミナーとワークショップ
歯学部事務職員研修と同時開催(岐阜大)

新企画第一弾「MEDTaalik1」



医学部授業 あえてオンライン

「対面」以上の効果狙う 岐阜大

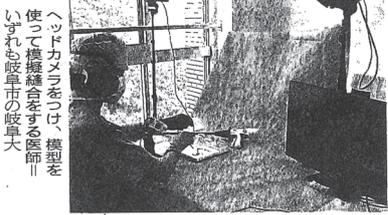
オンライン授業を対面授業の代わりではなく、もっと高い教育効果をもたらすものにする。そんな試みを一部の国立大の医学部が始めた。手術の様子を見せるにはカメラの目を活用したほうが分かりやすい面もあり、好評のようだ。

岐阜大（岐阜市）で6月下旬、手術の手法をオンラインで学ぶ実証実験があった。

模型を使い、大腸がんの腫瘍を切除する模擬手術。医師が腫瘍を切除したり、皮膚を縫合したりする様子も、医師が装着したヘッドカメラで、4Kビデオカメラなど計4台で撮影した。

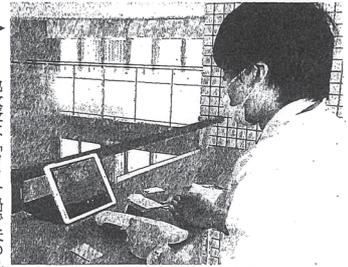
映像はNTTドコモの協力を得て、高速通信規格の5G回線で学内にリアルタイムで配信。教室や廊下のフリースペースに散らばった医学部生たちが、それぞれのノートパソコンやタブレット端末で視聴した。

コロナ禍で、大人数での講義や手術室での実習が制限され、学びを止めないためのオンライン授業の在り方を大学は模索してきた。実証実験について、岐阜大医学教育開発研究センター長の西城卓



ヘッドカメラをつけ、模型を使って模擬手術をする医師。いずれも岐阜市の岐阜大

← 医師の目線で実習 遠隔でも「わかりやすい」 →



離れた場所にいる医師の映像を見ながら、結合の練習をする岐阜大医学部の学生

也教授は「コロナ禍で失われた教育機会の補填以上の付加価値をもたらすことができる」と話す。例えば、対面の総合実習では、お手本を見せる医師を学生が囲んで見るが、医師の正面に立つと左右が逆になってしまう。後ろに立つと頭越しになり、細かい指先の動きが見えにくい。西城教授は「ヘッドカメラの映像だとしっかりと手元が見える。医師の目線から学ぶことでより深い理解が得られる」と言う。医学部5年の宮木梨花さん(仮名)も「対面の実習より分かりやすかった」と話した。

他大学との連携 効率的に

他大学の医学部とオンラインでつながる連携授業も始まった。名古屋大（名古屋市）と岐阜大は6月下旬、医学部医学科の全1年生計約200人を対象に、患者への寄り添い方や最先端の生体医療について議論するオンライン授業をした。

両大学は20年度から同じ国立大学法人東海国立大学機構が運営し、連携を強めている。名古屋大大学院医学系研究科の近藤豊教授は「科学が進み、医療倫理がより複雑化した今、他大学の学生から刺激を受け、多角的に考える力を養うことが医療人に求められる」と話した。(福原佳)

令和4年8月1日(月曜日)

文 教 ニ ュ ー ス

19 第2711号 (第三種郵便物認可)

岐阜大 MEDC

第82回医学教育ワークショップ

岐阜大医学教育開発研究センター(MEDC)は5月19日、21日の3日間、第82回医学教育セミナーとワークショップをオンラインで開催した。今回は第23回国立公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修と同時開催した。計4つのワークショップを実施し、講師を含む総勢171名の参加があった。ワークショップでは、「医療者教育の基本を教職協働で学ぼう」「Student supporter meets Her」「やまの日本語」など、多彩なテーマについて活発な議論がなされた。

形式で回答してもらい、その後、医療系教員・事務職員等の多職種によるグループで、意見を出し合った。また、新企画として「MEDTeach」を実施。MEDTeachは、あるテーマに関する講師のミニプレゼンとそれに続く講師とナビゲーターのやり取りの様子を視聴することができるという新たな企画で、参加者はQ&A機能を使って質問をすることもできる。その第一弾にあたるMEDTeachでは、3名の講師から卒後の研修医に対して、指導する上での苦勞や指導方法、評価方法等の講演があり、その後、参加者からの質問を交えて活発な議論がなされた。MEDCでは、年3回「医学教育セミナーとワークショップ」を開催しており、次回(第83回)は10月28日、29日の2日間、関西医科大学との共催で開催を予定している。

文教ニュース
2022.8.1(月)

発達障害の医療系学生支援

岐阜大がオンラインセミナー

岐阜大は四日、医療系の大学などに通う発達障害の学生が、医師や看護師といった専門職で活躍するために支援策を考えるオンラインセミナーを開いた。全国の大学教諭ら約百四十人が参加し、自らの経験をもとに求められる対策や課題を話し合った。

岐阜大の保健管理センターと医学教育開発研究センターが主催。支援の現状について、県内外の大学教員ら五人から報告があった。藤田医科大学(愛知県豊明

市)の藤江里衣子講師は、学習でつまづきやすいポイントを説明。勉強の優先順位をつけられない、人間関係がうまく築けないケースがあるとし、「苦手ゆえに一人倍のエネルギーを使っていることが多い」とした。複数の教員で情報共有し、サポートする環境の必要性を訴えた。



「発達障害のある学生の支援策を話し合う参加者ら」岐阜市柳戸の岐阜大で

られているのではないかとといった意見が挙がった。(中川耕平)

産科 厚労

(第3種郵便物認可)

発達障害ある女の子「月経」の悩み

特性に合わせたケアを

月経が始まったり、体形に変化が現れたり、思春期は女の子にとって戸惑いも多い時期だ。特に発達障害のある女の子の中には、変化にうまく対応できず、ケースも見られる。専門家は、特性に応じて具体的なアドバイスを伝えることや、当事者同士で励まし合う場の必要性を指摘する。

(小林由佳)

「最初のうちは仕方がないけれど、何度も繰り返すので困ってしまいました。東京都内で発達障害のある中学一年生の娘(こ)を育てる女性(母)はこう話す。初経は小学五年の夏ごろ。生理用品の使い方を一通り教えたが、経血量の多い日に便利な経痛付きタイプのナプキンがうまく着けられなかったり、まだ月経が続いているのに「もう終わらした」と下着や洋服を替ってしまったりする」とかあった。「家庭だけで、どう対処していいかわからない」とも悩む。

感覚過敏が嫌がる

合う生理用品を探す

発達障害の子どもの支援に詳しく、講師や臨床心理士でもある岐阜大医学教育開発研究センター講師の川



- 発達障害の女の子が思春期になりやすい二次的的症状
- ▶自律神経失調症(眠せられない、立ちくらみ)
 - ▶不安や強迫症状
 - ▶過度に服装を気にする、過度に無頓着
 - ▶摂食障害
 - ▶不登校・ひきこもり

*宮尾益知さん監修「女の子の発達障害」から

傾向がある。相手の考えや気持ちを察することが苦手な特性のため、集団に入らずに発達障害の子も多いという。「分からないことや困った時、どうしたらいいか聞ける相手がいることが大事」と宮尾さん。「発達障害の女の子がしんどさを感じる背景には、女の子が男の子以上に、コミュニケーションや気遣いといった社会性を求められるがちなこともあり、変えていく必要がある」と指摘する。

思春期は不安大きく

「発達障害の女の子に見られる感覚過敏が家」

高くなると「写真」は、月経を巡る失敗について「発達障害の女の子に見られる感覚過敏が家」

高くなると「写真」は、月経を巡る失敗について「発達障害の女の子に見られる感覚過敏が家」

高くなると「写真」は、月経を巡る失敗について「発達障害の女の子に見られる感覚過敏が家」

「最初のうちは仕方がないけれど、何度も繰り返すので困ってしまっただ。東京都内で発達障害のある中学一年生の娘(こ)を育てる女性(お)はこう話す。初経は小学五年の夏ごろ。生理用品の使い方などを一通り教えたが、経血量の多い日に便利な羽根付きタイプのナプキンがうまく着けられなかったり、また月経が続いているのに「もう終わったと思う」と下着や洋服を汚してしまったりするところがあった。「家庭だけでは、どう対処していいかわからない」ともある」

感覚過敏で嫌がる

合う生理用品を探す

発達障害の子どもの支援に詳しく、養護教諭や看護師でもある岐阜大医学教育開発研究センター講師の川上

発達障害ある女の子「月経」の悩み

特性に合わせたケアを

(小林由比)

上ちひろさん(写真)は、月経を巡る失敗について



「発達障害の子に見られる感覚過敏が影響しているところがある」と指摘する。ナプキンの素材が気に入らなくて着けるのを嫌がったり、手先が不器用でうまく扱えなかったりする場合も。布ナプキンや、吸水力が

高くナプキンなしで使える生理用ショーツなど、その子に合う製品を探し当てる

「発達障害の子に見られる感覚過敏が影響しているところがある」と指摘する。ナプキンの素材が気に入らなくて着けるのを嫌がったり、手先が不器用でうまく扱えなかったりする場合も。布ナプキンや、吸水力が

な特性があると、経血量に合わせたナプキンの種類の使い分けや、適切なタイミングでの取り換えが難しいこともある。「こういう場合、これを使うとよい」と具体的なアドバイスや川上さん。視覚的に理解しやすいイラストや動画なども活用するとよいという。川上さんは発達障害の女の子同士が集まって話せる「切だ」と話す。



川上ちひろさんが制作を担当した思春期の女の子向けのワークブックには月経の手当てをイラスト入りで解説するページも(NPO法人アスペ・エルデの会発行)「おこたになる女の子たちへ」から)

「どんぐり発達クリニック」(東京)の宮尾益知院長によると、体に大きな変化がある思春期は、発達障害の子にとって不安が大きくなりやすい時期という。

女子の場合は男子に比べ、多動など目立つ行動が少ないことなどから診断が思春期ごろまでずれこむことも多い。「思春期は周囲と違っていることを受け入れたくない、欠点を隠したい」という気持ちが強く、受診したことがないこともある」と宮尾さん。適切な対応がないために「大人に向かう当たり前の変化」と受け止められず、自律神経失調症など二次的な不調が出ることも少なくない。

思春期の女子は「共感」をベースにした「ガールズトーク」で仲間意識を育む

発達障害の女の子が思春期になりやすい二次的の症状

- ▶自律神経失調症(起きられない、立ちくらみ)
- ▶不安や強迫症状
- ▶過度に服装を気にする、過度に無頓着
- ▶摂食障害
- ▶不登校・ひきこもり

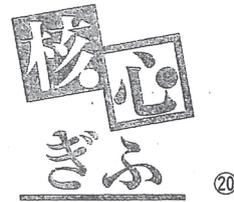
※宮尾益知さん監修「女の子の発達障害」から

思春期は不安大きく

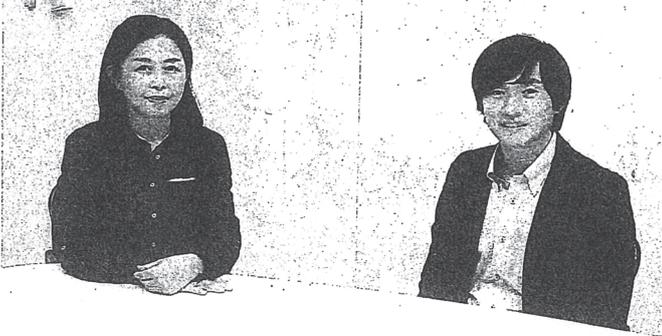
傾向がある。相手の考えや気持ちを察することが苦手な特性のため、集団に入れず悩む発達障害の子も多いという。「分からないことや困った時、どうしたらいいかを聞ける相手がいることが大事」と宮尾さん。「発達障害の女の子がしんどさを感じる背景には、女の子が男の子以上に、コミュニケーションや気遣いといった社会性を求められるがちなこともあり、変えていく必要がある」と指摘する。

発達障害学生 医療現場で輝くには

多様性許せる 環境づくりを



発達障害のある医療系学生の支援に取り組む川上さん(左)、堀田さん。岐阜市柳町の岐阜大で



一見するだけでは分かりづらい発達障害の学生が、医師や看護師といった医療の現場で輝くにはどうすればいいか。岐阜大(岐阜市)の保健管理センターと医学教育開発研究センターが、この難題に取り組んでいる。身体障害に比べて整備が遅れ、周囲の理解も十分ではない。支援の最前線に立つ堀田亮准教授と川上ちひろ講師に、現状や課題を聞いた。(中川耕平)

支援を巡っては、障害者差別解消法が二〇一六年四月に施行され、国公立大には「合理的配慮」が求められるようになった。大学側は本人の意思に基づいた上で、過度な負担にならない範囲で手助けや便宜を図らなければならぬとされ、不提供は「差別」となる。

二二年には私立を含むすべての大学で義務化された。法整備で潮目は変わった。だが、必要などころに

興味深い数字がある。日本学生支援機構(JASSO)が大学、短大、高等専門学校を対象に実施した、障害のある学生の修学支援に関する二〇年度の実態調査だ。医療系学部を除く学部では、在籍する障害者の支援率が五割を超えている一方、医学部・歯学部では三割ほどにとどまる。堀田准

教授は「見過ごされてきた発達障害学生がいるのでは」と指摘する。

岐阜大の堀田さん、川上さんに聞く

身体障害に程度の軽重があるように、発達障害も千差万別だ。一般に、注意欠陥多動性障害(ADHD)は忘れっぽい、自閉症スペクトラム障害(ASD)は相手の気持ちをうまく読み取れないなどの特徴があるとされるが、人によって濃淡がある。

特性が分かりやすい人は成長段階の早い時期で診断されやすい。一方、大人になつてから判明するケースも多く、近年になつて注目されるようになった。

堀田准教授は発達障害が疑われる学生も含めて、定期的に面談を重ねている。ただ、助けを求められない人もいたり、支援が必要なのは明白なのに本人がさほど困っていないかたりする例もある。

障害が見えづらいゆえ、理解が浸透してこなかった現実も横たわる。物事の優先順位が付けられない、締め切りを守れないといった特性は障害に起因する。だが、「本人の努力不足」とレッテルを貼られてきた。命を扱い、臨機応変な対応が求められる医療現場では、発達障害の特性の一部によって「うまくできないこともある」と川上さん。カウンセリングの中では、本人の意思を鑑みた上で、医療者としての適性を考えたいこともある。

◇人それぞれ

◇時代の変化

岐阜大の両センターが主体となり、一七年から毎年セミナーを開催。六回目の今年は九月にオンラインで実施し、全国から大学教諭ら約四百四十人が参加した。堀田准教授は「第一回のころは同じようなセミナーはほとんどなかった。時代の変化を感じると話す。

昨年の東京パラリンピックでは、共生社会の実現が大会理念の一つに掲げられた。当事者と接し、生の声に耳を傾けてきた一人に、あるべき社会の姿を尋ねた。

「患者さんに多様性がある以上、医療者にも多様性があったほうがいい。そして、それを許せる職能集団じゃなきゃいけない」と川上さんは言う。

堀田准教授は「前提として、異質を分けるのが良いことなのか。障害のある人に限定するのではなく、誰にとっても学びやすい環境をつくるのが大切」と話す。岐路に立つ社会で、支援の輪が広がることを願っている。

岐阜大MEDCが3年振りに実地開催
医学教育セミナーとワークショップ

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は、10月28日から29日の2日間
にわたり、「第83回医学教育セミナー」と
「ワークショップin関西医科大学」を大
阪府枚方市の関西医科大学で開催した。今回
は3年振りに共催校で対面形式により開催
した。公募を含めた計六つのワークショップ
とセミナーを実施し、講師を含む総勢1
74名が参加した。

セミナーでは、桐蔭横浜大学長の森朋子
教授を迎え、「深く理解する授業のデザイン
―「わかったつもり」を「わかった」へ」と
題して、学習者のより深い理解を促すため
の授業デザインのコツが語られた。教育者
は、順を追ってわかりやすく説明したから
と、理解してもらえた」と認識する
のではなく、学習者が理解の定着や思考
の深さを自ら追求できるように促すことの
重要性が強調された。

ワークショップでは、①コロナ禍におけ
る医学生から研修医への移行をどのように
支援するべきか?、②日本の全医学部にお
いて実現可能な医学英語教育の標準モデル
を目指して、③模擬患者大交流会など、多彩
なテーマについて活発な議論が展開された。
①コロナ禍における医学生から研修医へ
の移行をどのように支援するべきか?では
コロナ禍で、医学生が現場で学ぶ臨床実習
が制限され、臨床の手法や患者とのコミュ
ニケーションの経験が不足している研修医

が増加傾
向にあり
医学生か
ら研修医
に移行す
る際は、
さまざま
な配慮が
必要であ
ることを
話した。

特に現場で指導する
医療従事者や大学教員
からは、初期臨床研修を
開始する研修医に対し
てどのように支援した
らよいか、グループ
での意見交換を通じ
て、コロナ禍で同じ悩
みを抱えていることを
教育者間で共有でき、教育実践の改善につな
がる有意義な内容となった。

MEDCでは、医学教育共同利用拠点と
してわが国の医療者教育の普及・開発・向上
に寄与すべく、年3回「医学教育セミナー」と
ワークショップを開催している。次回第
84回は年明け1月26日(木)から28日(土)の3
日間、オンラインで開催予定(MEDCホー
ムページ: <https://www.gifu-u.ac.jp/me>
d/)。



森桐蔭横浜大学長によるセミナー

DX時代の医療
岐阜大でシンポ

来月16日、参加募る

オンライン講義をはじめ、コロナ禍で急速に進んだ大学でのデジタルトランスフォーメーション(DX)をテーマに「DX時代の医療系学生の育ち方」と題したシンポジウムが、十二月十六日に開かれる。主催する岐阜大医学教育開発研究センターは参加者を募っている。

会場は岐阜市吉野町の岐阜大サテライトキャンパスのほか、オンラインでも配

信する。拡張現実(AR)や仮想現実(VR)を活用した執刀医の目線で手術が見られる最先端の指導法、岐阜大が名古屋大とともに立ち上げた東海国立大学機構による教育連携の可能性など五つのトークセッションがある。

午後一時半開始。定員は現地五十人、オンライン百人で先着順。申し込みはインターネットの専用フォームQRコードから。☎岐阜大医学教育開発研究センター☎058(230)6470(中川耕平)



0 (中川耕平)

II 岐阜大学 II

医学教育セミナー in 関西

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は10月28日(月)29日、第83回医学教育セミナーとワークショップ in 関西医科大学を開催した。今回は3年ぶりに共催校において対面形式で開催。公募を含めた計6つのワークショップならびにセミナーを実施し、講師を含む総勢174名が参加した。

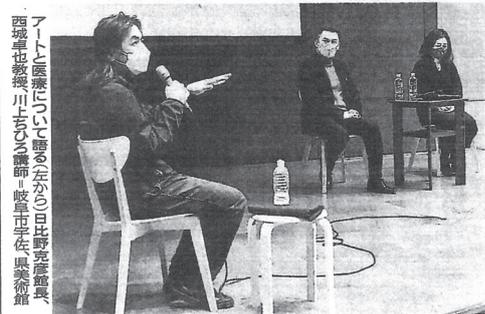
セミナーでは、桐蔭横浜大学の森朋子学長を迎え、「深く理解する授業のデザイン」「わかったつもり」を「わかった」へ」と題した講演が行われた。森氏は「教育者は、順を追ってわかりやすく説明したからといって、『理解してもらえた』と認識するのではなく、学習者が理解の定着や思考の深さを自ら追求できるように促すことが大切」と強調した。

ワークショップでは、①「コロナ禍における医学生から研修医への移行をどのように支援すべきか?」、②「日本の全医学部において実現可能な医学英語教育の標準モデルを指して」、③「模擬患者大交流会」など多彩なテーマについて活発な議論がなされた。

「コロナ禍における医学生から研修医への移行をどのように支援すべきか?」では、コロナ禍において、医学生が現場で学ぶ臨床実習が制限され、臨床の手法や患者とのコミュニケーションの経験が不足している研修医が増加傾向にあり、医学生から研修医に移行する際は、様々な配慮が必要であることなどについて話し合われた。特に現場で指導する医療従事者や大学教員らは、初期臨床研修を開始する研修医に対してどのように支援したらよいか、グループでの意見交換を通じて、コロナ禍で同じ悩みを抱えていることを教育者間で共有でき、教育実践の改善につながる有意義な内容となった。

2023年(令和5年)1月17日 火曜日

「社会的処方としてアートの効果に目を」



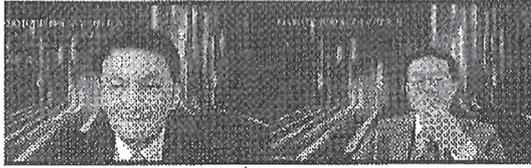
アートと医療について語る会から、日比野克彦館長、西城卓也教授、川上ひろる講師、岐阜市立 県美術館

医療と芸術関係語らう

日比野館長と 県美術館でフォーラム
アートと医療の視点から地域にできることを考える。ナンヤローネフォーラムが、岐阜市立の県美術館で開かれた。日比野克彦館長と岐阜大医学教育開発研究センター長の西城卓也教授、同センター長の川上ひろる講師が登壇し、医療分野に芸術の視座を取り入れる意義などを語り合った。

フォーラムには、地域との連携活動に取り組む県美術館のアートコミュニケーターや市民らが参加し耳を傾けた。

岐阜新聞
2023.1.17(火)



オンラインでの配信

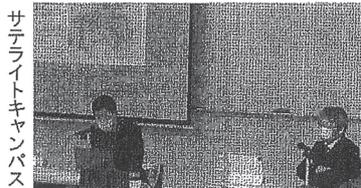
岐阜大学医学部では医療者教育におけるDXの取り組みとして、オンライン通信、オンライン会議システム、LMS(ラーニングマネージメントシステム)を利用した臨床系の医学技術を学ぶ授業や実習(模擬)患者および学生間でのコミュニケーションの授業や実習など、幅広く実施している。また、岐阜県内の遠距離の地域ともリアルタイムで容易につながることで、距離の移動などの障壁を取り除くことで学生の学びの機会や幅が広がるものと期待される。MEDCでは医学教育共同利用拠点として我が国の医療者教育の普及・開発・向上に寄与すべく、医療者教育に関するさまざまなイベントを開催している。

II 岐阜大学

医学教育開発シンポジウム

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は12月16日、令和4年度大学改革等シンポジウムを岐阜大学サテライトキャンパス(対面)とオンラインのハイブリッド形式で開催した。大学関係者・医療関係者・企業関係者・模擬患者を含む一般市民等、計105名が参加した。同シンポジウムは「医療者教育におけるDXとさまざまな共創的連携」と題しており、岐阜大学医学部で行っているICT技術やシステムを利用した様々な授業や教育の実践例を紹介した。

文教速報 2023.2.3(金)



サテライトキャンパス ac.jp/mendo/。

オンライン配信

岐阜県内の距離が遠い地域ともリアルタイムで容易につながることで、距離の移動などの障壁も取り除けることは、学生の学びの機会や幅が広がるものと期待される。

MEDCでは、従来から国内の他大学や医学部と同様にICTを用いた授業や実習を行っている機関。また、これから取り組みたい機関や参加者と情報共有の場を作りたいと考えていた。今回のシンポジウムで参加者から多くの質問やコメントが出され、医療者教育でのDXへの興味・関心の高さを窺うことができ、必要性を強く感じたという。シンポジウムで得られた知見を各機関が実情に見合った授業や実習となるよう工夫することで、全国でユニークかつ画期的な取り組みが今後増えることを期待している。

MEDCでは、医学教育共同利用拠点として我が国の医療者教育の普及・開発・向上に寄与すべく、医療者教育に関するさまざまなイベントを開催している(MEDCホームページ: <https://www1.gifu-u.ac.jp/mendo/>)。



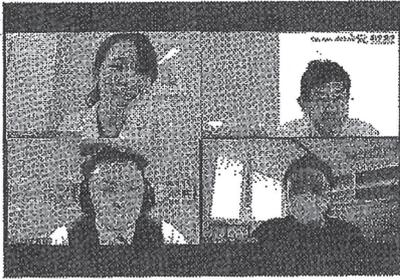
医学教育開発センターが開催 大学改革等シンポジウム(岐阜大)

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は、令和4年度大学改革等シンポジウムをこのほど岐阜大サテライトキャンパス(対面)とオンラインのハイブリッド形式で開催した。大学関係者・医療関係者・企業関係者・模擬患者を含む市民ら計105名が参加した。このシンポジウムは「医療者教育におけるDXとさまざまな共創的連携」と題して実施。岐阜大医学部で行っているICT技術やシステムを利用したさまざまな授業や教育の実践例を「魅力ある5つのトピック」とし、5つの授業や教育を紹介した(一覽参照)。

岐阜大医学部では、医療者教育でのDXの取組としてオンライン通信、オンライン会議システム、LMS(ラーニングマネージメントシステム)を利用した臨床系の医学技術を学ぶ授業や実習(模擬)患者や学生間でのコミュニケーションの授業や実習などを、幅広く実施している。また、岐阜県内の距離が遠い地域ともリアルタイムで容易につながることで、距離の移動などの障壁も取り除けることは、学生の学びの機会や幅が広がるものと期待される。

- ①広がってます！名古屋大学×岐阜大学—教育連携の可能性
名古屋大・錦織宏/岐阜大・西城卓也
- ②最先端！未来の医学教育ツール開発～AR、VR、そして遠隔通信～
岐阜大・松橋延壽/佐藤悠太
- ③やってみよう！オンラインでつながる県内医療系大学の連携授業
平成医療短期大・田島嘉人
- ④地域住民参加OK！医学生とオンラインでコミュニケーション実習
岐阜大・川上ちひろ/早川佳穂
- ⑤伝えたい！地域医療を担う医師から、医学生へのメッセージ
岐阜大・牛越博昭/県北西部地域医療センター・後藤忠雄

※敬称略



MEDTaaalk4

「MEDTaaalk4」は、「What's a Nurse Practitioner (NP)？」と題して、現在NP(診療看護師)として活躍している講師から、「NPは、医師よりも簡易に医療相談ができ、より専門的な看護指導をしている。医師の働き方改革や医師不足に貢献すべく、資格取得の必要性を含めて今後全国的な普及活動に努めていく」と、NPの養成課程や実際の仕事内容について説明がなされた。

文教ニュース
2023.2.13(月)

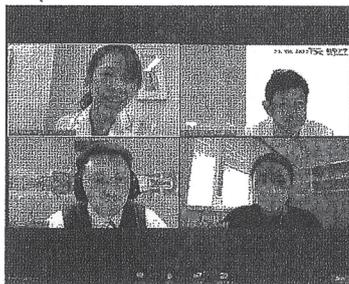
文教速報
2023.2.27(月)

岐阜大MEDCがオンライン開催
医学教育セミナーとワークショップ

岐阜大学医学教育開発研究センター(MEDC)は、第84回医学教育セミナーとワークショップを1月28日までの3日間にわたり、オンラインで開催した。今回は6つのワークショップと7つの「MEDTaaalk」を実施し、講師を含む総勢161名が参加した。

ワークショップでは、「わたしの学習支援力をブラッシュアップする!」やさしい日本語「医療者教育研究はじめの一步」など、多彩なテーマについて活発な議論が行われた。「医療者教育研究はじめの一步」では、医療者教育研究で、どのような研究テーマでどのように進めたいか迷っている研究者らを対象に、良いリサーチクエスチョンの要件や先行研究の検索方法などの理解を深めた。さらに、各参加者のニーズに合わせてリサーチクエスチョンをブラッシュアップすることができた。

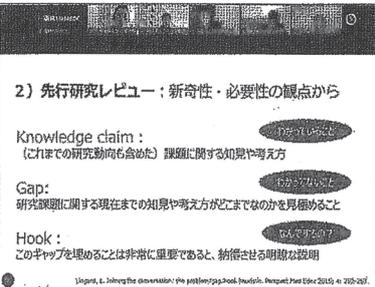
また、昨年5月に開催して以来2回目となるMEDTaaalkを実施した。MEDTaaalkは、あるテーマに関する講師のミニプレゼンとそれに続く講師とナビゲーターのやり取りの様子を視聴する企画。参加者はQ&A機能を使って質問することができる。



MEDTaaalk4

「MEDTaaalk4」は、「What's a Nurse Practitioner (NP)？」と題して実施。現在NP(診療看護師)として活躍している講師から、「NPは、医師よりも簡易に医療相談ができ、より専門的な看護指導をしている。医師の働き方改革や医師不足に貢献すべく、資格取得の必要性を含めて今後全国的な普及活動に努めていく」と、NPの養成課程や実際の仕事内容が説明された。MEDCでは、医学教育共同利用拠点として、全国の医療者教育の普及・開発・向上につなげるため、年3回「医学教育セミナーとワークショップ」を開催している。次回第85回は5月24日(水)から26日(金)の3日間、併催として5月24日(水)・25日(木)の2日間で、第24回教務事務職員研修を開催予定。

■MEDCホームページ
<https://www1.gifu-u.ac.jp/medo/>

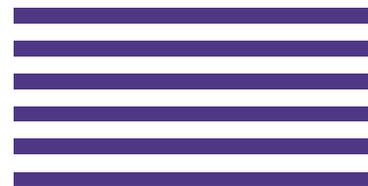


ワークショップ4

拠点活動

拠点活動

そら —学びの宙の報告—



博士課程

これから医療者教育学に関わることが多くなるかという教職員のためのeラーニングです。いつでも履修できます。

セミナーとワークショップ

これまでのべ1万3千人以上の方に参加していただいている、我々の代名詞の企画。新しい医療教育の開発研究と普及を促すべく、年3回開催する全国セミナーです。

メドギフト

ちょっと深く学んでみたくなってきた方にピッタリのプログラムです。約4か月間のコースで、連続する課題を通じて、自身の教育実践の省察や受講者との楽しい議論を通して学べます。

指導者の教育力アップを目指して

MEDCは共同利用拠点として、全国の指導者の指導力向上という大きなミッションのひとつを目指して活動しています。医学のみならず、歯学・薬学・看護学・理学／作業療法学等の専門職が集い、協働的に学べる場を提供しています。しかし教育を学ぶニードも、学びたいタイミングも人によりそれぞれです。

そこで、我々は、あらゆる医療者の指導的役割と段階に合わせた様々な教育プログラムを構築しています。それらを総称して、学びの宙(そら)と名付けました。これらを通じて、連続的かつ体系的で、職種横断的な学びの旅に参加できることでしょう。

医療者教育スターターキット

Starter Kit for Health Professions Educators

新任教職員・指導者むけ



紹介動画の視聴やコンテンツ、受講登録方法など詳細が確認できます。

概要

医療者教育スターターキットは医療者教育学の基本を学ぶeラーニングプログラムです。医療者教育機関で働き始めたばかりの教員、職員、あるいはこれから医療者教育学を学んでいきたい教職員が教職協働で学ぶことができるプログラムとしてMEDCが開発し（文部科学省・医学教育共同利用拠点第3期事業）、2021年12月より一般公開となりました。LMS（学習管理システム）のMoodle を利用し、Stepごとに動画を視聴し、小テストで確認する内容となっており、「アクティブラーニング」「シミュレーション教育」「学生支援」「OSCE」「ポートフォリオ」「認証評価」「Institutional Research」の7つのStepで学びます。

MEDC 担当教職員

早川佳穂 西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ
今福輪太郎 中田さおり 福井暁子 福田ゆう

特色・報告

FD/SDプログラムとしての導入の試み

FD/SDプログラムへの導入の試みとして、金沢医科大学にご協力いただき、実施しました。184名がプログラムへ参加登録し、期間中に45名がすべての項目を修了しました。

教務事務研修内での活用

第23回 国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修のプログラム内で教材として活用し、33名が修了しました。「OSCE」「アクティブラーニング」「シミュレーション」は、教材動画を作成していただいた講師を招いたワークショップを実施し、グループディスカッションを行い、さらに学びを深めました。

一般への公開

2021年12月より開始された、一般公開では3月までに561名が受講登録し、170名（内今年度修了者47名）が修了しました。

今後の課題と抱負

今年度はトライアル実施をしたFD/SDの活用をR5年度は本格的に実施し、さらに多くの医療者教育に関わる教職員が受講できるよう運営を行います。

医学教育セミナーとワークショップ

Seminars and Workshops in Medical Education

最新的话题を学びたい方むけ



これまでの医学教育セミナーとワークショップや、最新の開催情報を確認できます。

概要

MEDCでは、全国共同利用拠点として、医療者教育の普及と、新しい医療者教育の開発研究を促すためのFaculty Development (FD) / Staff Development (SD)、「医学教育セミナーとワークショップ」を定期的で開催しています。令和2年度より、春、秋、冬3回の定期開催となり、春は教務事務研修（p39参照）秋は全国の医療系大学との共催とすることで、より幅広い医療者教育関係者とともに、多職種にわたる参加者へ、その時代のニーズにあったテーマのFD/SDを届けています。またより多くの方に気軽にご参加いただけるように、主に冬はWeb開催としています。

MEDC 担当教職員

西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ 今福輪太郎
早川佳穂 中田さおり 福田ゆう 福井暁子
藤井梨恵子 脇坂琴乃 窪田恭子

第82回 医学教育セミナーとワークショップ

5月19日～21日

第23回 国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修との併催で実施しました。（参加者136名 講師29名 Web開催）

第82回セミナーとワークショップ実施要項

第83回 医学教育セミナーとワークショップ

in 関西医科大学 10月28日～29日

オンライン開催が続いていましたが、関西医科大学にて、2年ぶりの対面開催となりました。（参加者174名 講師26名 関西医科大学にて開催）

第83回セミナーとワークショップ実施要項

第84回 医学教育セミナーとワークショップ

1月26日～28日

Web開催の新たな試みとして、7つのテーマのMEDTaaalkを1日聴講できる企画を実施しました。（参加者161名 講師48名 Web開催）

第84回セミナーとワークショップ実施要項

今後の課題と抱負

2年ぶりの対面開催で、対面での学びの深まりも参加者に実感していただきましたが、一方で、隙間時間でも聴講できるMEDTaaalkも好評でした。引き続き、いろいろなニーズに応えるFD/SDを提供していきたいです。

アソシエイト会員制度

Associate Membership

学びの^{そら}宙を頻繁にご活用される方へ



アソシエイト会員認定に必要な単位(ポイント)の詳細などがご確認できます。

概要

アソシエイト会員認定制度はフェローシッププログラム(p37参照)の1つとなります。MEDC主催の医学教育セミナーとワークショップの各領域の企画に一定数参加され医学教育の基本を学ばれた方をアソシエイトとして認定する制度となっています。医学教育の基本領域として、教育方法(TL: Teaching and Learning)、評価(A: Assessment)、カリキュラム開発(CD: Curriculum Development)、運営/リーダーシップ(ML: Management/Leadership)、研究(R: Research)の5つが設定されており、要件に定められた単位を取得することで認定されます。

MEDC 担当教職員

西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ 今福輪太郎
早川佳穂 中田さおり 福田ゆう 福井暁子

特色・報告

令和4年度の認定者

令和4年度は6名がアソシエイトとして認定されました。職種の内訳は医師1名、歯科医師1名、看護師2名、その他2名となっています。

多職種にひろがるアソシエイト認定者

2016年に初めての認定者が誕生以来、7年目となるこの制度ですが、本年度、認定者が110名となりました。職種の内訳は医師43名、歯科医師16名、薬剤師6名、看護師16名、理学/作業療法士7名、その他22名と多職種にわたっています。

アソシエイト認定者への話題提供

コミュニケーションツールのSlack®にてMEDC教員より医療者教育の話題を提供した。

今後の課題と抱負

アソシエイト認定制度の目的の1つに全国の医療者教育の現場で活動しているメンバーとの交流があります。R4年度はコミュニケーションツールの活用を試みましたが、R5年度は、もっと交流ができるような機会を展開していきたいです。

フェローシッププログラム

Fellowship Program

少し体系的に学びたい方へ



フェローシッププログラムの最新のコース「メドギフト」の詳細が確認できます。

概要

フェローシッププログラムは全国の医療者教育者向けにMEDCが提供するプログラムで（文部科学省共同利用拠点第2期事業）継続的かつ体系的に医療者教育者の能力開発を支援するFDです。具体的には「アソシエイト認定（p36参照）」とオンラインコース「メドギフト」の修了で「MEDCフェロー」として認定されるプログラムです。本項目では主に自身の教育実践を振り返り、多職種を受講者間で意見交換をしながら医療者教育について学ぶ「メドギフト2022」に関して報告します。

MEDC 担当教職員

早川佳穂 今福輪太郎 西城卓也 川上ちひろ
中田さおり 福田ゆう 福井暁子

特色・報告

メドギフト2022

令和4年3月7日～6月3日の期間で実施し、医師8名、歯科医師1名、薬剤師1名、看護師7名、理学療法士2名、作業療法士2名、歯科衛生士1名、の計22名が受講しました。学習管理システムのMoodleを利用し、教育方法、学習評価、プログラム評価などの基本を受講者自身の教育実践の振り返りや受講者同志のオンライン上でのディスカッションを通して共に学びました。また、今年度は2回のオンライン開催のワークショップへの参加を必須としました。1回目は4月3日に実施し、これから共に学ぶ、グループのメンバーとの交流を深めることを目的とし、2回目は6月2日にまとめの会として実施しました。

MEDCフェロー

令和4年度も多職種の2名がMEDCフェローとして認定され、総計65名となりました。

今後の課題と抱負

今年度はオンライン開催ではありますが、メドギフトの受講者が交流し、ともに学ぶ機会を増やしましたが、実際に交流をしたことで、オンライン上でのディスカッションも活発に行われました。オンラインでも協働的により深く学べる支援をR5年度も続けたいと考えております。

MEDC機関誌

新しい医学教育の流れ

Trends in Medical Education

医学教育の潮流を知りたい方向け



過去に「医学教育セミナーとワークショップ」に参加された方は、全文閲覧が可能です。

概要

医療人の育成および教育に関する活動報告や情報提供、意見交換を目的とした機関誌として、MEDCは「新しい医学教育の流れ」を発刊してきました。

これまで医学教育セミナーとワークショップの報告書としての特色が強かった本誌は、2015年（15巻1号）より、医療者教育に携わる方々からの活動報告や総説、意見などの論文を掲載する機関誌として刷新を図り、2020年（第20巻2号）にはオンラインジャーナルとして発刊しています。

2022年は、「医学教育セミナーとワークショップ」の開催にあわせて、3号を発刊しました。

MEDC 編集担当

今福輪太郎 早川佳穂 西城卓也 川上ちひろ
恒川幸司 鈴木康之 藤崎和彦 藤井梨恵子

特色・報告

オンラインジャーナル

冊子体として発刊していた機関誌をオンラインジャーナル化することで、利用者の本誌へのアクセス・利便性を高めることができました。一方で、各号の論文や報告ごとの閲覧およびダウンロードは整備中であり、さらなる改善をしていきたいです。

掲載論文

2022年は、活動報告「VRを用いた高度実践看護師教育の実践」、主張「学生支援とIRの連携」の2編の投稿論文が掲載されました。より多くの多職種からの教育実践報告や意見等をお待ちしております。「セミナーとワークショップ」の報告に加えて、医療者教育に関する内容のさらなる充実が今後の課題となります。

今後の課題と抱負

本誌の内容を充実させるためには、より多くの方からの投稿が必要であり、そのための広報体制や編集体制のさらなる整備が必要です。医療教育者だけでなく、医学生や大学院生からの投稿も広く募りたいです。

教務事務研修

Staff Development

医療者教育に携わる事務の方へ



対象・期間

全国医学部歯学部教務事務職員
5月19日～5月20日

特色・報告

全面オンライン化

2021年度からZoomやMoodleを駆使したWeb開催となり、前後の移動が不要のため2022年度は移動を含めた3日開催から朝～夕2日間の開催になりました。

FDとSDの融合

両日とも医学教育セミナーとWSに参加している、教員や臨床現場での指導者と協働のプログラムにて、一緒に学び議論をしながらFDとSDの融合する機会となりました。

スターターキットの活用トライアル

別項でも紹介しているスターターキットのMoodle教材を視聴して、たくさんのフィードバックを頂きました。

概要

国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修（教務事務研修）は国立大学医学部長会議の教育制度・カリキュラムに関する小委員会と全国医学部長病院長会議医学教育委員会の主催で、2001年に岐阜大学に全国共同利用施設として医学教育開発研究センター（MEDC）が設立されて以降、年に一度開催されている研修会です。

MEDC 担当

藤崎和彦 早川佳穂

中田さおり 福田ゆう 福井暁子

今後の課題と抱負

全国共同利用拠点第3期事業のテーマとして掲げる「FDとSDの融合」をさらに発展できるよう、スターターキットのより良い活用を各大学と模索しながら、さらに効果的な学びの場を目指してまいります。

ホームページ/Facebook/Twitter

Website/Facebook/Twitter

インターネットを通じた情報発信

MEDCのホームページ

～MEDCは、医療者教育の新しい潮流を創ることに挑戦し続けています～

<https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>



MEDCの紹介とともに、MEDCが提供する「医療者教育の学びの宙」、オンラインジャーナル「新しい医学教育の流れ」にアクセスしやすいトップページとなっています。

さらに「医療者教育の学びの宙」のコンテンツとして医療者の指導的役割と段階に合わせた様々な教育プログラム「セミナーとワークショップ」「教務事務職員研修」「アソシエイト認定制度」「フェローシッププログラム」「医療者教育スターターキット」のページを設け、医療者教育を学びたいかたのニーズに合わせたプログラムの案内をはじめ、最新情報を載せています。また、大学院の紹介として「医療者教育学専攻修士課程」「医学教育学博士課程」のページを設けており、それぞれの特色や、卒業生の声などもお届けしています。また今年度より、セミナーとワークショップ受講者と講師が資料共有できるスペースを含めた「マイスペース」を新たに提供し、受講状況やアソシエイトポイントも確認しやすくなりました。今後も多くの医療者教育に関わるかたの学びへの入り口として、更新していきたいと考えています。

(担当：早川佳穂・福田ゆう)

Facebook

Facebookでは、MEDCで企画しているイベントの告知や、実施報告を行っています。随時情報を発信しており、申し込みサイトのリンクを添付していますので、申し込みをしていただけます。

Twitter

2020年からTwitterを開始し、教員や博士課程の学生の論文紹介など行っています。SNSの情報発信を通じて、皆さんとのつながりを作っていきたいと思います。

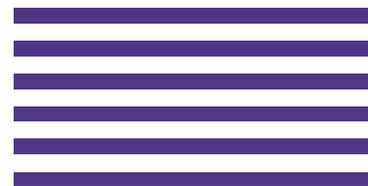


(担当：川上ちひろ・脇坂琴乃)

大学院教育

大学院

—教育研究の推進—



博士課程

医学教育・医療者教育に関する国際学術誌に研究論文を掲載すべく、これまで築いた研究者との国際的なネットワークを生かしながら、協働的・学際的にハイレベルな研究指導を行う体制を築いています。

修士課程

医療の質向上に寄与する医療者教育を展開し先導すべく、多職種の人材と連携しながら、医療者教育に貢献できる人材を育成するための課程です。

研究領域

原則として、履修生の教育実践やこれまでの経験から研究テーマやリサーチクエスチョンを設定して、研究指導を進めています。特に、質的研究方法や理論的枠組みを用いた研究デザインに力を入れています。

大学院医学系研究科の一部門として

MEDCの教員は、医科学専攻の医学教育分野の博士課程、そして医療者教育学専攻の医療者教育学の修士課程にて、大学院生指導と研究推進を担っています。いずれの課程においても、医師のみならず様々な医療系職種の指導者や、医療系教育機関の教員の方々など広く門戸を開いています。

特に医療者教育学修士課程は、2020年に国内で初めて設立された課程です。卒業生は体系的に医療者教育学と教育研究の基本を学び、修了しています。国内でリーダーシップを発揮し、医療者教育の活動を推進していくオピニオンリーダーになることが期待されています。

修士課程(医療者教育学)

Master's course of Health Professions Education

コンピテンシー

教育能力、教育設計力、先導力、協働力、学識の発信力



対象・期間

修士課程1-2年生 12名

4月1日～3月31日

概要

本課程は、1年次で「多職種連携」「教育方法と評価」「日本に相応しい教育設計」「人材育成」「マネジメント」等を教育理論と関連づけながら体系的に学びます。2年次では、1年次の学びを活かしつつ、自身の教育実践から湧き起こる研究課題を修士論文として取り組みます。

ミッション

本課程は、グローバルな視点を有し、多職種の人材と連携しながら、医療者教育を設計、実践、改善、発信できる能力の持つオピニオンリーダーの育成を目指します。

MEDC 担当教員

西城卓也 今福輪太郎 川上ちひろ 早川佳穂
藤崎和彦 鈴木康之

特色・報告

対面型授業(スクーリング)

22年度のスクーリングは、ほぼ全日程を対面にて開催できました。学生同士で顔を合わせて話し合えたり、講師に直接質問できたりする環境は対面授業の強みであります。

非同期型学習

スクーリング後、学生は各科目の課題をMicrosoft TeamsやMoodleを活用しながら取り組みます。対面型授業と非同期型e-learningをブレンドすることで、効果的な学習機会を提供することができました。

2期生の修了

21年度入学の2期生6名が、学位審査会を経て本課程を修了することができました。自身の教育実践を批判的に吟味し、「地域医療を担う指導医の地域医療教育に対する思い」や「臨床参加型実習での医学生の自己調整学習」などに関する研究プロジェクトに取り組みました。今後の修了生の医療者教育での益々の活躍が期待されます。

今後の課題と抱負

現地の空気を感じ人々との交流を通じて学べることも多くあるため、Withコロナ時代の海外視察を行う経験学習の選択科目を考える必要があります。また、今後の修了生のコミュニティ形成やMEDCとの関わり方も考えていきます。

博士課程(医学教育学)

PhD course (Medical Education)

コンピテンシー

研究能力、学識の発信力



対象・期間

博士課程1-4年生
4月1日～3月31日

概要

本課程では、大学院生が各自の教育分野に応じて、独自の研究テーマを設定し、積極的に研究活動を行っています。研究成果の国際誌への掲載を目指し、MEDC教員が研究指導にあたっています。現在、5名の大学院生（博士課程）が在籍しています。

ミッション

本課程の修了者は、医学教育学の専門家として、教員、医療者、学生等を指導でき、教育システムを自ら構築、改善し、研究を遂行できることを目標としています。

MEDC 担当教員

西城卓也 今福輪太郎 川上ちひろ 恒川幸司
早川佳穂 藤崎和彦 鈴木康之

特色・報告

個別のニーズに応じた定期的な研究指導

社会人大学院生として所属先の業務と両立させながら研究を進めていくため、研究計画、データ収集・分析、論文執筆と個々のニーズにあわせながら指導を行っています。研究指導は、対面に加えてオンラインで実施することで忙しい大学院生でも無理なく着実に研究を進められています。

博士課程学生の論文採択

22年度は下記の学生の論文が受理されました。

Aono M, Obara H, Kawakami C, Imafuku R, Saiki T, Barone MA, Suzuki Y. Do programme coordinators contribute to the professional development of residents? an exploratory study. BMC Med Educ. 18;22:381.

Asakawa M, Imafuku R, Kawakami C, Hayakawa K, Suzuki Y, Saiki T. Promoting a culture of sharing the error: A qualitative study in resident physicians' process of coping and learning through self-disclosure after medical error. Front. Med. 9:960418.

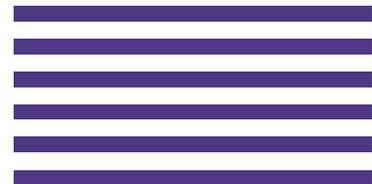
今後の課題と抱負

社会人大学院生が忙しい日々の中でモチベーションを保ちながら研究を遂行するための指導体制やサポートの在り方は、引き続き検討していきたいです。

卒前教育

卒前教育

— 医学生の学びを支える —



低学年

地域の住民との交流や施設の訪問などを体験できるearly exposureや、コミュニケーションの基本を学ぶ実習を担っています。

中学年

研究室体験から医療面接の基本や人のライフサイクルを理解するために必要な人文社会学系の授業も取り入れています。

高学年

臨床実習の準備教育を担っています。また、OSCEなどの評価について学部や医師育成推進センターと連携して運営に参画しています。

医学部医学科の一部門として

MEDCは、岐阜大学の医学部の卒前教育にも深く携わっています。岐阜大学医学部は伝統的に問題基盤型のテューリアル教育を主体としたカリキュラムを組んでいます。近年は、それに固執することなく、様々な教育アプローチを積極的に導入し、学生の学びを最大限に引き出すべく、

ICTを駆使した新しい授業や実習を推進しています。

MEDCのカバーする科目は実に多様です。我々のネットワークを生かし学内の他講座のみならず、他大学・岐阜県内外の様々な医育機関とのコラボレーションを図ってユニークな授業の提供に努めています。

テュトリアル教育

Problem-based Learning

コンピテンシー

医学知識、問題対応能力

対象・期間

医学科2-4年生の各講座の学習に毎週導入

PBL 概要

基礎医学や臨床医学を体系的に学習するために、学生は実に多くの知識を吸収し問題解決能力を育みます。シナリオに基づくグループ学習が毎週展開されています。

PBLの狙い

知識を吸収し記憶に定着させるには様々な教育アプローチがありますが、教科書を丸暗記するやり方では真の知識獲得とはいえません。PBLでは、実世界で直面する問題（シナリオ）提示から学習が始まり、学生間での議論を通じて、その問題を自ら解決する経験と思考過程を重視します。

PBL テューター

岐阜大学医学部医学科の全教員が参画しています。MEDCは基礎系講義と臨床系講義との両方のテューターを幅広く担当しています。

特色・報告

オンライン化

With コロナ時代となった2022年度もオンラインPBLを継続的に実施することとなりました。MEDCはオンライン授業対策チームのメンバーとして、Microsoft Teamsを駆使したオンラインPBLの実施に関する助言と協力をしました。

学習アプローチのブレンド化

近年のアクティブラーニングの多様化を受け、グループ討議を行うテュトリアルコアタイムの時間の一部を反転授業やよりインタラクティブな講義に切り替えることができました。

スマートフォンの活用

検索サイトの活用が普及した情勢を省み、“何も見ないで議論するPBL”からの脱却を図るべく、タブレット等による検索を一定の条件下で認め推奨しています。

今後の課題と抱負

オンラインPBLが常態化しつつあるコロナ禍において、時間割もより弾力化を図り、対面とオンライン授業の効果的なブレンドをすすめることが課題です。タブレットの活用を容認中での、新たなテューターファシリテーションスキルも探索していきます。

医学概論

Introduction to Medicine

コンピテンシー

医学・医療の包括的知識を身につける



対象・期間

医学科4年生
4月14日～7月28日

実習概要

6年間の医学教育課程のスタートとして、医学とは何か、人間の本质とは何か、医学の成り立ち等、多彩な講師によるオムニバス形式で実施されています。

学習内容

MEDCでは以下の2コマを担当しています

- ①「なぜ患者さんとのコミュニケーションは難しいのか」 5/12
：患者と医療者のコミュニケーションの基本を知る
- ②「チーム医療を体験してみよう」 7/7
：多職種連携の基本を知る

MEDC 担当教員

西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ

特色・報告

コミュニケーション体験

医療を行う上で患者や多(他)職種実習とのコミュニケーションは非常に大切です。6年間の授業や実習でも必要となるコミュニケーションを体験する最初の授業です。

看護学科との合同授業

医療の重要なパートナーの一人となる看護学生と交流できる、学生時代では貴重な授業の機会です。この授業では、他職種の基本が学べるよう、看護学科の先生とも協力して実施しています。

オンラインを取り入れた授業

授業ではICTシステムを取り入れています。スマートフォンで簡単なクイズに答えてもらいました。また、Microsoft Teamsで授業の事前アナウンスや感想を記入してもらうなどに利用しました。授業当日は、対面とWeb会議システムを用いて授業を行っています。

今後の課題と抱負

医学生が大学生になり最初に受講する授業ですので、医学・医療とは何かについて、興味を持てるような話題提供ができるようにしたいと考えています。

テュトーリアル選択配属

Research Experience (Elective)

コンピテンシー

リサーチマインド、批判的思考力、自己学習能力



対象・期間

医学科2年生
1月10日～3月17日

実習概要

10週間で研究計画の立案、実施、分析、発表までを体験する科目です。学生自身が興味のある研究課題を見出し、主体的に研究活動を行います。

学習目標

医学教育学の選択配属では、学生の主体的な研究立案、データ収集・分析、考察、発表といった研究の一連の流れを体験することで、学生の研究に対する基本的理解の向上やエビデンスに基づく思考力、主体的な学習態度などの涵養を目的とします。

MEDC 担当教員

今福輪太郎 川上ちひろ 早川佳穂 藤崎和彦
西城卓也

特色・報告

主体的な研究活動

学生が身近に感じる教育への問題意識を研究課題として、学生が主体的に取り組める工夫をしています。先行文献の共有や、分析、発表等の資料作成をMicrosoft Teams上で実施し、学習の効率化を図っています。

質的研究の経験

学生の研究に対する考え方を広げるため、量的研究とは異なるパラダイムである質的研究の実施を促しています。

他大学合同発表会の企画

2014年度より関西医科大学や香川大学と合同で同時期に医学教育研究に取り組む学生とのウェブ発表会を企画しています。他大学の学生に研究報告を行ない、今後の研究の方向性を検討する貴重な機会となっています。

学生研究員制度

選択配属終了後に、学生研究員として「医学生オンラインテュトーリアルに対する認識」に関する学会発表を行い、Student Awardを受賞しました。

今後の課題と抱負

多様な研究フィールドの確保やICTの活用、他大学との共同研究活動など、さらに深い学びを促していきたい。学会発表や論文執筆など、教育研究に興味のある学生には、フォローアップの指導体制の確立も必要になります。

地域体験実習

Community-based learning

コンピテンシー

自ら学ぶ、学びや体験を表現する



対象・期間

医学科4年生
10月6日～12月1日

授業概要

岐阜県の医療制度などを学び、また岐阜に暮らす住民との交流によって、それらがどのような関連しているのかを知る。さらに医療系学生として何が必要なのかを考えます。

学習目標

人の発達過程を学ぶ、地域の医療・保健制度を知り住民との関係を理解する、地域の住民との交流を通じてコミュニケーションスキルやマナーを理解し実践できる、医療者としてのプロフェッショナリズムやデジタルプロフェッショナリズムを学ぶ、フォトボイスを作成し発表する、ことを目標としています。

MEDC 担当教員

西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ 今福輪太郎
早川佳穂

特色・報告

岐阜県のことを知る授業

岐阜県の地理、医療保健制度、疾病の特徴、地域の様子などに興味を持ってもらうことができました。授業での学びをフォトボイスにまとめ、ふりかえりと発表をします。

コミュニケーション体験

シニア世代、母親世代、外国人市民など様々な領域のパートナーにご協力いただき、コミュニケーション実習を行います。

オンラインを取り入れた授業

Web会議システムを活用したオンライン実習や、Microsoft Teamsを用いたグループ学習などを織り交ぜて実施しています。

様々なエキスパートの招聘

オンライン授業のおかげで、多くの学外の先生方の講義等を受講することができます。

今後の課題と抱負

自己学習・グループ学習と、地域での様々な体験とが、効果的にリンクできるような仕組みを作りたいと考えています。この授業で学びをフォトボイスや今後の行動に落とし込めるような問いかけを工夫したいと考えています。

医師患者関係

Doctor-Patient Relationship

コンピテンシー

コミュニケーション



対象・期間

医学科4年生
7月11日～7月15日

実習概要

1年生の初期体験実習、地域体験実習と4年生のOSCEをつなぐ意味で、医師患者関係とコミュニケーションの基本を体験学習を通じて学ぶものです。

学習目標

医師患者関係の基本とコミュニケーションのポイントについて理解し、良好な医師患者関係形成のための基本的なコミュニケーション技能を体験学習を通じて体得します。

MEDC 担当教員

藤崎和彦 今福輪太郎 西城卓也 川上ちひろ
早川佳穂

特色・報告

初診の医療面接の基本を学ぶ

臨床実習前OSCEの学習評価項目をもとにした、動画を作成し、教材としました。医療コミュニケーションの基本を学んだ後、医療面接をパートに分け、パートごとにレクチャーと相互練習を組み合わせた授業を実施しました。

模擬患者との初診医療面接実習

臨床実習前OSCEと同じような環境で、模擬患者との初診時医療面接を実施し、教員が評価を行い、即時フィードバックをしました。

多様な医療面接を学ぶ

行動変容のLEARNのモデル、Bad News TellingのSPIKESモデルといったアドバンスなテーマを扱い、実際に模擬患者との面接やグループディスカッションを通して学びました。また、多文化共生社会における医療コミュニケーションをテーマとし、やさしい日本語でのコミュニケーションを学びました。

今後の課題と抱負

今年度より、プログラムを大幅に見直しました。さらに学生がアクティブに学べたり、動画教材を活用できるように工夫していきたいです。

臨床推論

Clinical Reasoning

コンピテンシー

医学知識と問題対応能力をつける



対象・期間

医学科4年生
10月3日～10月21日

授業概要

臨床実習準備の一環として、総合内科学等と共同実施している科目です。この実習の直後の臨床実習に必要なスキルの土台を作るのに役立っています。

学習目標

本コースはどの科でも必要・基本となる臨床能力と知識を身につけることを目標としています。そして様々な症候に対して病歴・診察を通じて診断にたどり着く思考、そしてその症例呈示ができる力を身につけます。

MEDC 担当教員

西城卓也 川上ちひろ

特色・報告

オンライン化

Microsoft TeamsやWeb会議システムを駆使し、オンライン授業と対面での演習を織り交ぜて実施しています。

様々なエキスパートの招聘

同期型のオンライン授業のおかげで、望月礼子先生（鹿児島大）や清水郁夫先生（信州大）の貴重な講義を、学生に提供しています。

模擬カンファレンス

評価も重要であると考えています。臨床実習で症例カンファレンスで堂々をプレゼンテーションし、臨床推論の議論に参加できるよう、模擬症例カンファレンス形式の口頭試問法を開発し実施しています。

今後の課題と抱負

この実習の次の科目が「ライフサイクル」で、症例を社会医学的なレンズから考察する授業を行います。その授業と連動させて、患者の診断に必要な臨床推論（医学）のレンズと社会的レンズから患者さんを見られるようカリキュラム開発を進めたいと考えています。

ライフサイクル

Life cycle

コンピテンシー

人間の生き方を知る、医学知識を問題解決に応用する



対象・期間

医学科4年生
10月24日～10月28日

授業概要

様々なライフサイクルを経る人間の一生を生物心理社会モデルの視点でアセスメントします。そしてそこで起こる問題や課題に対して、これまで学んできた知識を応用して問題解決方法を考えます。

学習目標

多職種で高齢者や家族の支援を議論できる、人の発達の特徴と課題を説明できる、家族のライフサイクルやシステムについて事例を通じて議論できる、情報・科学技術による医療、介護、福祉の変容が予測できる、ことを目標をします。

MEDC 担当教員

西城卓也 川上ちひろ

特色・報告

他の医療系大学との多職種連携授業

岐阜県の他の医療系大学（岐大含み5校、9職種）と連携授業を行っています（10/24）。

学内の様々な領域の医師との連携

臨床実習で指導いただくことになる精神科、産科婦人科、脳神経内科などの医師に動画教材の作成を依頼することで、臨床実習までに学んでおいてほしい知識の準備をしています。

オンラインを取り入れた授業

多職種連携授業では、Web会議システムを用いて授業を行いました。また、ライフサイクルに関する動画教材を多く作成し、Microsoft Teamsを用い、自己・グループ学習のきっかけをつくっています。また最終日にはグループで作成した課題発表と共有を行います。

今後の課題と抱負

「臨床推論」と関連した授業構成であるため、双方の授業が効果的に学べるような進め方を工夫したいと考えています。動画教材を多く視聴してもらい、グループワークで課題解決を検討するように促していますが、有意義なグループワークができるよう課題提示を工夫したいと考えています。

医療英語・国際交流

Medical English・International communication

コンピテンシー

英語コミュニケーション、異文化対応能力



対象・期間

医学科4-5年生
課外実習（2月～7月：計5回）

実習概要

本課外実習は、6年次の選択臨床実習期間に海外の医療機関での実習を希望する者を対象とした準備教育です。英語による医療面接や身体診察、症例報告を模擬患者や講師とのロールプレイを通じて学びます。

学習目標

海外臨床実習で求められる医療面接や身体診察を含む患者コミュニケーションに必要な英語表現を習得します。実習先の指導医や医療者間の会話内容が理解できる英語力を目指します。

MEDC 担当教員

今福輪太郎 早川佳穂 西城卓也

特色・報告

外部講師の招聘

英国で医師としての臨床経験があり、日本での医療英語教育に精通している外国人講師を招聘しています。

外国人模擬患者の協力

本課外実習では実践的な学びを促すため、外国人市民や留学生に模擬患者として参加してもらっています。

対面授業とオンライン授業の組み合わせ

本課外実習は基本的にオンラインで開催しましたが、身体診察に関する実習は対面にて実施しました。Withコロナ時代の中で、学習内容に応じて対面授業とオンライン授業を効果的に使い分けることができました。東海国立大学機構として名古屋大学の学生4名も参加しました。

海外臨床実習

22-23年度より海外臨床実習が再開となり、アメリカ、イギリス、タイ、ドイツ、韓国などへ9名が実習参加しました。

今後の課題と抱負

eラーニング教材など医療英語や海外実習準備に有用なリソースを共有していきたいです。22年度より海外臨床実習が再開となり、Withコロナ時代における学生派遣や留学生受入れの在り方について検討する必要があります。

英語OSCE

English OSCE

コンピテンシー

英語コミュニケーション、異文化対応能力



対象・期間

医学科5年生
課外実習（6月18日）

実習概要

海外臨床実習の希望者対象の準備教育の総括として、英語OSCEを実施しています。試験は3～4ステーションで構成され、症例シナリオが提示されたあとに、医療面接や症例報告に関する実技試験を行います。

学習目標

海外臨床実習で求められる医療面接や身体診察において必要なコミュニケーションや英語表現や態度、非言語コミュニケーション能力等を総合的かつ形式的に評価し、今後の学習につなげることも目的としています。

MEDC 担当教員

今福輪太郎 早川佳穂 西城卓也

特色・報告

オンラインOSCEの実施

今年度もオンラインでのOSCEを実施しました。学生は会場に集合し、評価者と模擬患者がオンライン参加の形態としました。各ステーションにパソコンを設置し、受験者はパソコン上の模擬患者に対してHistory Takingを行いました。名古屋大学の学生（1名）はオンライン参加により受験することも可能となりました。

卒業生の協力

学生時代に医療英語ワークショップの受講と英語OSCEの受験を経験し、海外臨床実習に参加した卒業生3名にOSCE評価者として協力してもらいました。

評価方法の工夫

評価表はGoogleスプレッドシートで作成しました。評価者にオンライン上で評価を記入してもらうことで、評価の共有・集計の効率化を図ることができました。

今後の課題と抱負

受験者数に応じた十分な評価者の協力を得ることが今後も必要となります。ある程度の模擬患者の演技の統一などは今後の課題となります。

里親(里子)支援

Student Support

コンピテンシー

心身の安定をはかる、学生相互交流をする



対象・期間

医学科4-5年生
課外実習(2月~7月:計5回)

概要

MEDCに割り振られた学生(1学年3名~8名程度)と授業外でつながりを持ち、定期的に面談を行います。学生の状況把握と、困りごとへの相談に対応します。

目標

学生が心身ともに健康な状態で学業に望むために、基盤を作つくります。学内で、クラスやサークル以外でのネットワークを作ります。

MEDC 担当教員

西城卓也 藤崎和彦 川上ちひろ 今福輪太郎
早川佳穂

特色・報告

活動内容

教員とのつながりを持つため、定期的に面談を行なっています。そこでは学生相互の交流も行います。

また、定期的にイベントを計画し、学年を越えた交流も行っています。また卒業生ともつながりを持ちながら活動を行っています。

連絡方法

里子学生とは、Microsoft Teamsを通じて、連絡等を行なっています。

今後の課題と抱負

里親一里子関係は、主となる学生支援ではなく、緩いつながりです。学生によっては不要と感ずることもあるかもしれませんが、学生支援におけるセーフティネットの一つとして機能することを期待しています。

学内活動・学外活動

指導医講習会

CLINICAL TEACHER TRAINING@GIFU PREFECTURE

岐阜県では、初期臨床研修医の指導に当たる研修病院の指導医への講習会を、岐阜県医師育成・確保コンソーシアムが年2回、2日間で主催しています。このコンソーシアムは岐阜県の研修病院群で構成されます。MEDCは講習会責任者の一端を担い運営に参画しています。令和4年度は、昨年オンライン化に成功したことに加え、働き方改革にも対応させ、オンライン事前学習＋オンライン同期型学習（初日）＋対面学習（二日目）というモデルにブラッシュアップできました。また木曜・金曜開催の完全平日開催、時間を9-16時とし、教育力を磨く本講習会が、研鑽というよりは研修であるという位置づけを明確にすることに成功しました。より新しい講習会モデルを提示していくことに尽力してまいります。

ユニットの会

UNIT ASSOCIATION

全国の医学部や大学病院にある医学教育に関連する部門が集うユニットの会を設置し、全国の仲間とともに運営しています。医学教育ユニットの会における活動は、主に2つあります。1つはメーリングリストによる情報共有であり、もう1つは総会で、年に一度の日本医学教育学会大会に顔合わせを兼ねて実施されます。前者では、セミナーやワークショップなどの開催案内や、最近ではコロナ禍に伴う情報共有も数多くなされています。後者については、2022年の第54回大会において、久しぶりの対面でのユニットの会総会を開くこととなりました。来年度の開催時間や名簿の取り扱いについて話し合いをすることができました。

臨床スキル・シミュレーションラボ

SKILLS-LAB

臨床スキル・シミュレーションラボ（スキルスラボ）は教育福利棟4階にあり、医療で必要な基本的な技術を、シミュレータ等を用いて練習／学習できる、主に卒前教育を対象にした施設です。利用者の多くは医学部医学科学生であり、その利用目的は臨床実習および選択臨床実習期間中の臨床実習技能訓練、OSCE前実習やOSCE試験、それに加え、2つのサークル「基本的臨床技能の会」、「Gifu Emergency Medical students」が活動を行っています。また、研修医のオリエンテーション、看護部の新人研修、さらには特定行為看護師の研修でも利用しております。昨年度に続き、Pre,Post CC-OSCEに対する自主練習について、予約枠を設定することで、すべての希望者が十分に練習できるように工夫しました。また、さらに自主練習の機会を提供するため、MEDCの部屋を一部開放し、練習のできる環境を準備しました。また、OSCEの公的化にむけて、新規のシミュレータの複数購入しました。臨床実習および選択臨床実習では、小児科、脳神経科、総合内科、外科、泌尿器科がスキルスラボを利用しました。学生がより積極的に利用できるような環境づくりを引き続き実施します。

岐阜大学模擬患者の会

SIMULATED PATIENT ASSOCIATION

患者役として医療者教育に協力する市民の会です。模擬患者さんのご協力は医療者教育には欠かせないものとなっております。令和5年2月現在、41名（男性13名、女性28名）が活動をされています。本年度も4年生の臨床実習前OSCE、OSCE試験を中心に多くの模擬患者さんに患者役として、ご協力いただきました。さらに1年生の地域体験実習授業内のコミュニケーション実習で学生とコミュニケーションをとっていただいたり、4年生の『患者は語る』の授業で患者や患者家族の体験を語っていただいたりと、幅広くご活躍いただいています。また、令和5年度から臨床実習前OSCEの公的化を踏まえ、模擬患者さんも『認定標準模擬患者』として認定を受けることが必須となりました。岐阜大学模擬患者の会も認定標準模擬患者養成団体として認定され、11名の認定標準模擬患者が誕生しました。R5年度もより、充実した活動をしていただけるような支援を行ってまいります。

医学教育分野のIR実践

PRACTICE OF INSTITUTIONAL RESEARCH IN MEDICAL EDUCATION

Institutional Research (IR) とは、学内のデータを収集・分析・報告することによって大学の改善を促すことです。岐阜大学医学部医学科では、2017年に「医学教育IR室」が正式発足し、学生およびカリキュラムを統括的に評価する役割を担っています。2021年の12月にWFME Global Standardに基づいた医学教育分野別評価の2巡目受審を受け、2022年度から、IRのさらなる機能強化を図るべく、医学教育IR室はMEDCから分離した形になり、以後も協力を続けていくという体制になりました。さらに、学部総体としてのIRを実践すべく、教育プログラム評価委員会が立ち上がり、11月に第1回委員会が開催されました。今後は、分野別評価受審時の指摘事項を改善すべく、IR実践に取り組んでいきたいと思っています。

沿 革

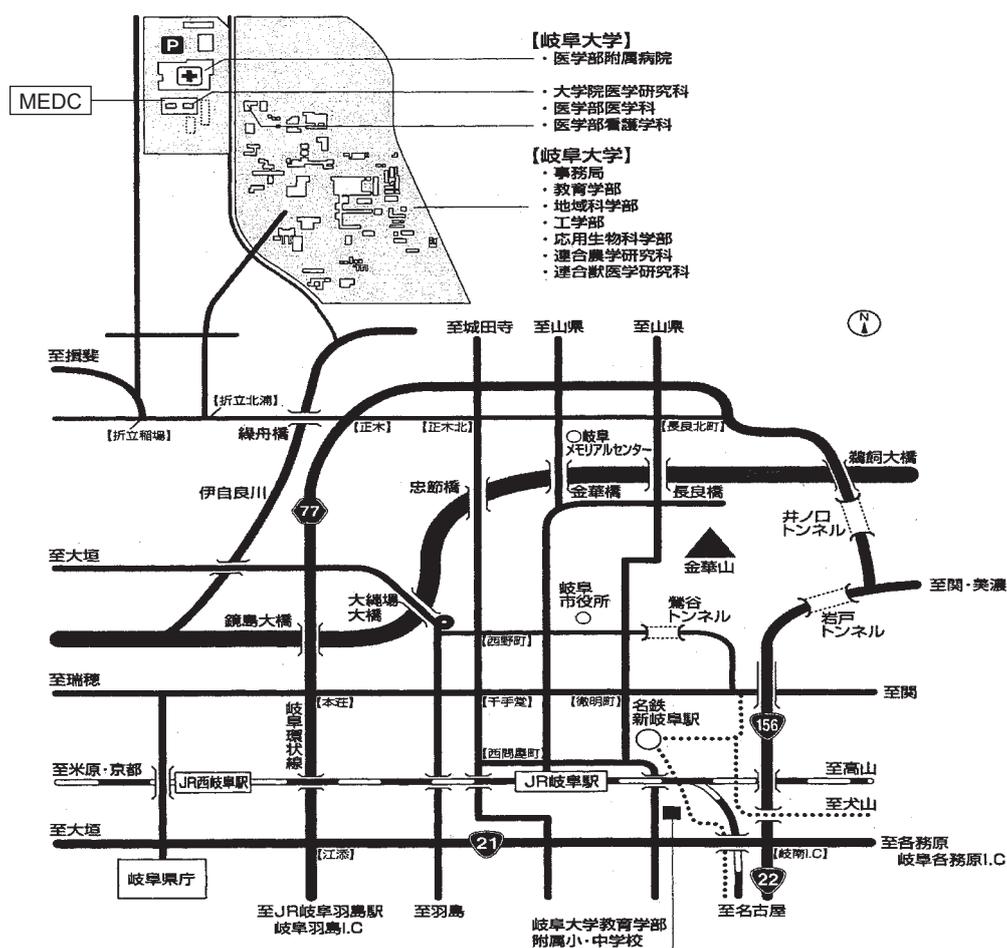
西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
2000.3. 2000.9.15-17 2000.12.22	第1回医学教育セミナーとワークショップ 第2回医学教育セミナーとワークショップ 医学教育開発研究センター 設置認可	医学教育学会 尾島昭次会長 32回医学教育学会（東北大） 東京大学医学教育国際協力研究センター開設
2001 2001.5.29 2001.8.27-30 2001.11.8-10	医学教育開発研究センター開設 客員教授 Chirasak Khamboonruang 先生招聘 記念式典・基調講演・祝賀会（岐阜ルネサンスホテル） 第3回医学教育セミナーとワークショップ 第2回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	33回医学教育学会（東海大） 医学教育モデル・コア・カリキュラム策定 アメリカ同時多発テロ
2002 2002.5.24-26 2002.8.26-28 2002.11.12-14 2002.11.16-17	知的クラスター創成事業受託 客員教授 Gregg Colvin 先生招聘 スタッフ海外研修（メルボルン大学、シドニー病院視察） スタッフ海外研修（マーストリヒト大学視察） 第4回医学教育セミナーとワークショップ 第5回医学教育セミナーとワークショップ 第3回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第6回医学教育セミナーとワークショップ	34回医学教育学会（昭和大学） 東京医科歯科大学歯学教育システム 研究センター開設 FIFA ワールドカップ
2003 2003.1.25-26 2003.5.23-25 2003.7.31-8.2 2003.10.25-26 2003.11.12-14	特色ある大学教育支援プログラム（文科省）「能動・思考促進型 を柱とする全人的医学教育」採択 客員教授 Jutty Ramesh 先生招聘 第7回医学教育セミナーとワークショップ（久留米大） 第8回医学教育セミナーとワークショップ 第9回医学教育セミナーとワークショップ 第10回医学教育セミナーとワークショップ（近畿大） 第4回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	医学教育学会 齋藤宣彦会長 35回医学教育学会（佐賀医大） SARS
2004 2004.1.31 2004.5.22-23 2004.8.5-7 2004.10.23-24 2004.11.24-26	客員教授 Ratanavadee Nanagara 先生招聘 第11回医学教育セミナーとワークショップ 第12回医学教育セミナーとワークショップ（藤田医科大） 第13回医学教育セミナーとワークショップ 第14回医学教育セミナーとワークショップ 第5回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	36回医学教育学会（高知大） 新医師臨床研修制度施行 医療系大学間共用試験実施評価機構 岐阜大学医学部・附属病院移転 スマトラ島沖地震・大津波
2005 2005.1.29-30 2005.4.23-24 2005.8.26-28 2005.11.5-6 2005.11.28-30	スタッフ海外研修（ハーバード大学） 第15回医学教育セミナーとワークショップ（慈恵医大） 第16回医学教育セミナーとワークショップ（金沢医大） 第17回医学教育セミナーとワークショップ 第18回医学教育セミナーとワークショップ（岩手医大） 第6回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	37回医学教育学会（東京大） 共用試験 CBT/OSCE 正式実施 中部国際空港（セントレア）開港 愛知万博
2006 2006.1.28-29 2006.4.22-23 2006.8.25-27 2006.10.28-29 2006.11.27-29	客員教授 Phillip Evans 先生招聘 スタッフ海外研修（スコットランド） 第19回医学教育セミナーとワークショップ 第20回医学教育セミナーとワークショップ（筑波大） 第21回医学教育セミナーとワークショップ 第22回医学教育セミナーとワークショップ（横浜市大） 第7回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	38回医学教育学会（奈良医大） 人口減少社会に突入 医療崩壊問題

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
2008 2008.1.12-13 2008.5.10-11 2008.6.7 2008.8.4-6 2008.10.25-26 2008.12.3-5	医学教育学博士課程開講 客員教授 Jan-Joost Rethans 先生招聘 第 27 回医学教育セミナーとワークショップ (名城大) 第 28 回医学教育セミナーとワークショップ (大阪医大) 岐阜大学模擬患者の会 10 周年シンポジウム 第 29 回医学教育セミナーとワークショップ 第 30 回医学教育セミナーとワークショップ (日本医大) 第 9 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修	40 回医学教育学会 (東京医大) 医学部定員増・地域枠入試導入 リーマンショック 後期高齢者医療制度
2009 2009.1.24-25 2009.5.16-17 2009.8.7-9 2009.10.28-30 2009.11.14-15	現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム (文科省)「臨床医学教育を強化向上させる ICT」採択 客員教授 Jennifer Cleland 先生招聘 スタッフ海外研修 (グラスゴー大学 OSCE 視察) 第 31 回医学教育セミナーとワークショップ 第 32 回医学教育セミナーとワークショップ (慶應義塾大) 第 33 回医学教育セミナーとワークショップ 第 10 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 34 回医学教育セミナーとワークショップ (札幌医大)	医学教育学会 伴信太郎理事長 41 回医学教育学会 (近畿大) 新型インフルエンザパンデミック
2010 2010.1.23-24 2010.5.22-23 2010.8.27-29 2010.10.27-29 2010.11.6-7 2010.12.21	教育関係共同利用拠点認定 (第 1 期) 客員教授 Peter Baton 先生招聘 客員教授 Phillip Evans 先生招聘 アフガニスタン医学教育研修受入 スタッフ研修 (スコットランド医学教育視察) 第 35 回医学教育セミナーとワークショップ 第 36 回医学教育セミナーとワークショップ (東邦大) 第 37 回医学教育セミナーとワークショップ 第 11 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 38 回医学教育セミナーとワークショップ (名古屋大) 10 周年外部評価	42 回医学教育学会 (日本医大) ECFMG 通告 (2023 年問題) 小惑星探査機はやぶさ帰還
2011 2011.1.22-23 2011.5.14-15 2011.6.1-3 2011.8.5-7 2011.11.19-20	医学教育開発研究センター開設 10 周年 客員教授 劉 克明先生招聘 外部評価 第 39 回医学教育セミナーとワークショップ (広島大) 第 40 回記念医学教育セミナーとワークショップ・10 周年記念式典 第 12 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 41 回医学教育セミナーとワークショップ 第 42 回医学教育セミナーとワークショップ (千葉大)	43 回医学教育学会 (広島大) 医学教育モデル・コア・カリキュラム改定 東日本大震災・福島第一原発事故 FIFA 女子ワールドカップ
2012 2012.1.28-29 2012.5.26-27 2012.6.6-8 2012.8.17-19 2012.10.26-28	客員教授 Farhan Bhanji 先生招聘 スタッフ研修 (マギル大学医学教育視察) 第 43 回医学教育セミナーとワークショップ 第 44 回医学教育セミナーとワークショップ (福島医大) 第 13 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 45 回医学教育セミナーとワークショップ 第 46 回医学教育セミナーとワークショップ	44 回医学教育学会 (慶應義塾大) MERS 山中教授ノーベル賞
2013 2013.1.25 2013.1.26-27 2013.5.8-10 2013.6.8-9 2013.8.9-10 2013.11.1-3	スタッフ研修 (グラスゴー大学、エジンバラ大学) 第 47 回プレカンファレンス (WFME スタンダード) 第 47 回医学教育セミナーとワークショップ (琉球大) 第 14 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 48 回医学教育セミナーとワークショップ (京都大) 第 49 回医学教育セミナーとワークショップ 第 50 回記念医学教育セミナーとワークショップ	45 回医学教育学会 (千葉大) 医学教育分野別評価トライアル開始

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
2014 2014.1.27-28 2014.5.13-15 2014.5.24-25 2014.8.8-10 2014.8.27-30 2014.10.18-19 2014.10.27-31 2014.12.5	客員教授 Susan Bridges 先生招聘 特任教授 Phillip Evans 先生招聘 Trevor Gibbs 先生招聘 第 51 回医学教育セミナーとワークショップ（東京医科歯科大） 第 15 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 52 回医学教育セミナーとワークショップ（秋田大） 第 53 回医学教育セミナーとワークショップ スタッフ研修（ヘルシンキ大学） 第 54 回医学教育セミナーとワークショップ（九州大） 第 1 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 “Teaching in the Clinical Setting”（マギル大） 大学改革シンポジウム「地域・市民とともに育てる医療人」	46 回医学教育学会（和歌山医大） 日本専門医機構設立 医学教育専門家制度発足 デング熱 御嶽山噴火
2015 2015.1.31-2.1 2015.5.13-15 2015.6.6-7 2015.8.7-9 2015.10.17-18 2015.11.2-6	教育関係共同利用拠点認定（第 2 期） フェローシップ・アソシエイト制度開始 客員教授 Daisy Rotzoll 先生招聘 医学教育賞牛場賞（高橋優三） 医学教育賞日野原賞（鈴木康之） 第 55 回医学教育セミナーとワークショップ 第 16 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 56 回医学教育セミナーとワークショップ（埼玉医大） フェローシッププログラム：メドギフト 2015 開催 第 57 回医学教育セミナーとワークショップ 第 58 回医学教育セミナーとワークショップ（香川大） 第 2 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 “Teaching in the Clinical Setting”（マギル大）	47 回医学教育学会（新潟大） 岐阜大学医学教育分野別評価トライアル受審 大村教授ノーベル賞
2016 2016.1.23-24 2016.5.11-13 2016.5.21-22 2016.8.19-21 2016.10.22-23	客員教授 Yvonne Steinert 先生招聘 第 59 回医学教育セミナーとワークショップ 第 17 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 60 回医学教育セミナーとワークショップ（東京医大） フェローシッププログラム：メドギフト 2016 開催 第 61 回医学教育セミナーとワークショップ 第 62 回医学教育セミナーとワークショップ（兵庫医大）	医学教育学会 鈴木康之理事長 48 回医学教育学会（大阪医大） 東北医科薬科大学医学部新設 熊本地震
2017 2017.1.27-29 2017.5.10-12 2017.4.22-23 2017.7.21-23 2017.10.14-15 2017.10.23-27	客員教授 Linda Snell 先生招聘 第 63 回医学教育セミナーとワークショップ 第 18 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 64 回医学教育セミナーとワークショップ（昭和医大） 第 65 回医学教育セミナーとワークショップ フェローシッププログラム：メドギフト 2017 開催 第 66 回医学教育セミナーとワークショップ（岡山大） 第 3 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 “Teaching in the Clinical Setting”（マギル大）	49 回医学教育学会（札幌医大） 日本医学教育評価機構設立 岐阜大学医学教育分野別評価認定 医学教育モデル・コア・カリキュラム改定 Post-CC OSCE トライアル開始 国際医療福祉大学医学部新設
2018 2018.1.27-28 2018.6.1-3 2018.6.2-3 2018.8.18-19 2018.11.3-4	客員教授 Joyce Pickering 先生招聘 第 67 回医学教育セミナーとワークショップ（早稲田大） 第 19 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 68 回医学教育セミナーとワークショップ（第 6 回日本シミュレーション医療教育学会併催） フェローシッププログラム：メドギフト 2017 開催 第 69 回医学教育セミナーとワークショップ（信州大） 第 70 回医学教育セミナーとワークショップ（自治医科大）	50 回医学教育学会（東京医科歯科大） 医師国家試験問題 400 問へ 医行為に関する研究班（門田班） 本庶教授ノーベル賞 新専門医制度施行 医学部不適切入試問題

西 暦	医学教育開発研究センター	医学教育と社会背景
2019 2019.1.25-27 2019.5.24-26 2019.5.25-26 2019.7.28 2019.8.9-10 2019.8.29-31 2019.10.12-13 2019.10.28-11.1	医療者教育学専攻修士課程認可（文科省設置審） Jennifer Cleland 先生招聘 第 71 回医学教育セミナーとワークショップ 第 20 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修 第 72 回医学教育セミナーとワークショップ フェローシッププログラム：メドギフト 2019 開催 セミナー「格差時代の医学部入学を考える」 第 73 回医学教育セミナーとワークショップ（愛知学院大） スタッフ研修（ライプツィヒ大学） 第 74 回医学教育セミナーとワークショップ（国際医療福祉大） （台風により中止） 第 4 回岐阜県内臨床研修病院指導医のための実践的研修 Teaching in the Clinical Setting（マギル大）	51 回医学教育学会（京都府立医大） 平成から令和へ 働き方改革 ラグビー-W 杯 吉野彰ノーベル賞
2020 2020.1.25-26 2020.5.22-24 2020.5.23-24 2020.10.2-4	医療者教育学専攻修士課程開講 教育関係共同利用拠点認定（第 3 期） フェローシッププログラム：メドギフト 2020 開催 第 75 回医学教育セミナーとワークショップ 第 21 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修（COVID-19 パンデミックにより中止） 第 76 回医学教育セミナーとワークショップ（ウエブ） 第 77 回医学教育セミナーとワークショップ（ウエブ）	医学教育学会 小西靖彦理事長 52 回医学教育学会（鹿児島大） COVID-19 パンデミック 東海国立大学機構設立 はやぶさ 2 帰還 東京オリンピック延期
2021 2021.1.22-23 2021.5.21-23 2021.11.13-14	医学教育開発研究センター 20 周年 フェローシッププログラム：メドギフト 2021 開催 第 78 回医学教育セミナーとワークショップ（ウエブ） 第 79 回医学教育セミナーとワークショップ（ウエブ） 第 22 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修（ウエブ） 第 3 期拠点事業教職協働スターキット開講 第 80 回医学教育セミナーとワークショップ（with 聖隷浜松病院）	53 回医学教育学会（自治医大） COVID-19 パンデミック 新型コロナウイルス ワクチン接種開始 東京オリンピック開催 真鍋叔郎ノーベル賞 医学教育分野別評価 2 巡目受審
2022 2022.1.22-23 2022.3.18 2022.3.25 2022.5.19-21 2022.10.28-29	フェローシッププログラム：メドギフト 2022 開催 医学教育賞日野原賞（西城卓也） 医学教育賞懸田賞（今福輪太郎） 第 81 回医学教育セミナーとワークショップ（ウエブ） MEDTaalk プラス：『さまざまな「学習・学修できない」と、その支援』 医療者教育学修士一期生卒業 第 82 回医学教育セミナーとワークショップ（ウエブ） 第 23 回国公立医学部・歯学部教務事務職員研修（ウエブ） 第 83 回医学教育セミナーとワークショップ（関西医科大）	54 回医学教育学会（群馬大） 北京オリンピック開催 ロシア ウクライナ侵攻 円急落 サッカー-W 杯
2023 2023.1.26-28	第 84 回医学教育セミナーとワークショップ（ウエブ）	COVID-19 マスク着用を個人判断に

岐阜市内地図



医学教育開発研究センター 2022年度年報

発行 令和5年6月

編集

医学教育共同利用拠点

岐阜大学 医学教育開発研究センター

〒501-1194 岐阜市柳戸 1-1

Medical Education Development Center (MEDC), Gifu University

Yanagido 1-1, Gifu 501-1194, JAPAN

TEL: +81 58 230 6470 FAX: +81 58 230 6468 E-mail: medc@t.gifu-u.ac.jp

Homepage: <https://www1.gifu-u.ac.jp/~medc/>

発行所 株式会社ダイキュー

〒503-2215 岐阜県大垣市赤坂大門3丁目61-1

